



学習院広報

第64号

平成13年 7月15日

特集 新教室棟建築計画について

学習院院歌

院長 島津久厚

京都で公家の学問所であった学習院は、明治維新後の東京遷都により明治十年神田錦町で再興されました。いつから式典等で歌が歌われるようになったか、はっきりしませんが、「修学習業歌」は古くから歌われ、また華族女学校、女子学習院では「金剛石」「水は器」「花すみれ」「月の桂」が歌われました。その他寮歌や応援歌はいろいろとありましたものの、正式な院歌というものはありませんでした。それが、第二次世界大戦後社会情勢の大変動に伴って、昭和二十二年、学習院が宮内省の管轄を離れて私学として再発足した当時の院長で、以後昭和四十一年に亡くなるまで院長であった安倍能成氏によって昭和二十六年四月に新しく院歌が作られました。安倍院長は高名な哲学者、教育者であり、かつ気骨ある自由主義者として高名な方であります。元学習院大学長児玉幸多氏によれば、安倍院長が「私の学習院学生及び日本国民に寄せる願いを披瀝するために」「一、三ヶ月

おもな内容

学習院院歌	①
新教室棟建築計画について	③
血洗いの池の水質浄化と 周辺整備の工事が始まる ホッケー部の歩み	⑦
学校法人学習院の財政状況について	⑧
大学退職者所感	⑫
大学就職状況	⑫
女子大学の就職支援／新しい奨学金 人事	②③
平成13年度入学試験結果／ 博士學位記授与 専任教員著作紹介	②④
学習院「ユース	③①
	③③

も考えてやつと出来た」程の思いを込めて作詞されたのが現在の院歌です。御承知の方が多いのですが念のために記しますと歌詞は次の通りです。

- 一、もゆる火の 火中に死にて
また生るる 不死鳥のごと
破れさびし 廃墟の上に
たちあがれ 新学習院
- 二、花は咲き 花はつるふ
過ぎし世の 光栄ふみしめて
まなかひに 世界ををさめ
現実を 生きてしぬかん
- 三、なげかめや 昔を今と
荒波よ 狂はば狂へ
黒雲よ ゆく手はとぎせ
我が胸は 希望高鳴る
- 四、二つなく 亨けし我命
おのがじし 育て鍛へて
もろともに 世にぞ捧げん
常照らせ 真理と平和

なお、作曲は「海行かば」などで有名な信時潔氏です。

この歌詞は「新学習院」という呼びかけの言葉以外は、当時敗戦に打ちひしがれ住居や食糧もなく、ともすると絶望的になろうとする日本国民にも向けられたものであると思います。然し、学習院も目の白の校舎、青山の女子部の施設が空襲でまさに廃

墟となりましたし、更に社会的、経済面の大変動による打撃を受けた家庭出身の学生も多かったことを思いますと、この歌はまさに人の世の栄枯盛衰を思い、一方でこれから立ち上ろうという気概と、国家社会の為に尽くそうとする覚悟を示した、当時の情勢に相応しい歌詞であったと申せましよう。

その後日本が豊かになるに従って、学習院関係者の中に「いつまでも『廃墟の上』でもあるまい」と言う人もあつたようですが、安倍院長はその遺稿集の中で学習院の再建当時に思いを馳せつつ、『破れさびし廃墟の上に』を削ってくれと言う学生もあるが廃墟の昔を忘れてもらいたくない」と記しておられます。

確かに一時はこの歌詞に違和感を覚えると言う意見も若干あつたように聞いていますが、現在ではこの院歌が私学としての学習院の原点を現わしている素晴らしい歌詞であるとともに、信時氏による作曲も人の心を動かすものがあり、多くの卒業生、在学生がすっかり馴染んで愛着を覚えているものでもある、と思われまふ。

然し、この歌は莊重とも感じられるもので、これと別に現代の若い学生の皆さんにも気軽に、リズム感を持って歌って貰えるような歌もあつてもいいのではないかという意見もあつて、卒業生の団体である桜友会が企画されて「学習院讃歌 新しい

世紀にむかつて」が平成十年に作られました。これも現在の院歌と共に歌い継がれてゆくことでしよう。

一体に、校歌、応援歌、寮歌のようなものは、その学校の士気や誇りを高め、帰属心を強くすると同時に、青春の日を何時までも思い出させて呉れるものであります。それに加えてこの院歌は学習院が昭和二十二年に私学として再発足した時代の歴史や背景、また当時の心意気をよく現わし、その精神を長く歌い継ごうとするところに大きな意義があると思います。

学習院の院歌がこのような意義を持っていることを折りに触れて思い出したいものです。



特集

「新教室棟建築計画について」

新教室棟建設開始

大学長

小倉 芳彦

平成13年4月20日、院長はじめ法人関係者、大学長、大学関係者、施工関係企業関係者の出席のもと、地鎮祭が無事執り行われ、21世紀の最先端の教育環境を目指した新教室棟（仮称）（以下「新教室棟」という）の建設が開始されました。新教室棟は、延床面積約8,800㎡、地下2階・地上6階（中2階含む）で、建設場所は西1号館の一部および旧西2号館の跡地周辺であり、平成14年11月の竣工、平成15年4月からの利用開始を目指しています。

建築計画までの経緯

平成8年度以来、学長の諮問機関である「大学基本計画策定委員会」を中心として、大学全体のキャンパスプランについて全学的に検討を重ね、本学の建物・教室等に関連する諸問題を審議しました。その結果、後述のような「特色ある教室」を複数設けることをはじめとして、あらゆる面からの学生生活へのサービス向上を図ることを目的とした新教室棟の計画案がまとまり、法人との協議を経て、その計画案が承認されました。

構想当初は、富士見会館内に設置する計画もあった「トレーニングセンター構想」も、この建物の地階の2フロアにまたがる拡大した規模のものとして実現することとなりました。

新教室棟のコンテンツ・各フロアの特徴

新教室棟は、以下のように、大きく3つに分類できます。

教育ZONE

…… 2階～5階

自習室・フリースペースZONE

…… 1階

福利厚生施設ZONE

…… 地下1階・地下2階

建物内に予定している設備等内容の特色および概要は、以下のとおりです。

（教室名は仮称）

〔エスカレーターの設置〕

学内の建物としては、初めてエスカレーターを導入します。1階から5階まで稼働させ、学生が教室間をスムーズに移動することを可能にします。

また、バリアフリー環境にも意識して、エレベーターを2基設置します。

完成予想図



(地下2階から5階が1基、1階から5階が1基)。

〔地下2階〕

トレーニングルーム(正課・課外活動・一般利用共用)

トレーニングルームは、地下2階から地下1階までの吹き抜けとし、各種のトレーニング用機器を設置するほか、吹き抜け部分にランニングコースを設けます。さらにインストラクターを常駐させ、機器の正しい利用方法についてアドバイスを受けられるようになります。

屋外で行う体育実技の正課が雨天の際に利用できる他に、課外活動の学生も利用でき、さらに一般学生や教職員も無料で利用できるようにする予定です。

また開室時間を長くしてほしいという要望にも十分に配慮しつつ利用規程の検討が進められており、土曜日の午後や日曜日の利用についても検討中です。

男女用更衣室・シャワー室

男女各18名が同時に利用可能なシャワー室や更衣室等をトレーニングルーム

の隣に設け、トレーニングルームの開放時間中は利用可能とする予定です。

〔地下1階〕

保健室

現在西門付近の西7号館にある保健室を、地下1階に移設し、あわせてその規模を拡大します。このことにより、正課あるいは課外活動に伴う怪我や健康上の諸問題に対しても、今まで以上に迅速な対応が可能となり、一層学生の利便を図ることができるようになります。

〔1階〕

自習室エリア

自習室の充実についてはかねてより学生からの要望が強かったことをうけて、新教室棟の中心の一つとして、新しいタイプの自習室が設置されます。自習室内には数十台規模のパソコンを常備し、インターネットを利用しながらのグループ学習のためのスペース、ビデオ・オン・デマンドシステムによる共同視聴コーナー等を備えます。

開室時間についても、学生の便宜のためになるべく長くする方向で検討が進められており、その際のセキュリティ

の確保にも細心の配慮が払われることになっていきます。

学生ホール

現在西5号館にある学生ホールがかなり混雑し手狭となりつつある状況に鑑み、新たに新教室棟の1階にも学生ホールを設けます。

開放時間も、自習室エリアと同様とするを予定しており、学生のための憩いのエリアを確保する予定です。

成文堂書店

キャンパスプランにおいて新教室棟を本学の中心と位置付けたことから、学生の書籍購入の便宜のために、現在の西5号館1階から移転します。

〔2階〕

以下 内は座席数

大教室 1室 450
新教室棟内で最大の収容数を擁する、マルチメディア装備を備えた教室です。

ホワイトボードが後部の席からは見づらいという学生からの意見に配慮して、電子ホワイトボードを導入する予定です。教員が壇上でホワイトボード上に書いた文字等が、拡大されてスクリーン上に映し出されることになりま

す。

双方向教室 1室 60

「特色ある教室」の一つとして、21世紀型の新たな授業形態である「双方向」インタラクティブ講義」が可能な設備を備え、60名程度が着席可能なマルチメディア教室です。

小教室 3室 36～54

本学の特色である「少人数教育」をより一層充実させるための教室で、演習関連の授業を中心に使用される予定です。

〔3階〕

中教室 2室 240、304

いずれもマルチメディア機器を備えた教室です。

小教室 4室 36～60

〔4階〕

3階と同様の構成です。

〔5階〕

映像教室 1室 240

映画の上映が可能なように、遮光・音響効果に配慮をした「特色ある教室」の一つです。この種の設備は、従来は小規模教室にしかなかったのですが、この教室は200名強の着席が可能な中規

模教室です。

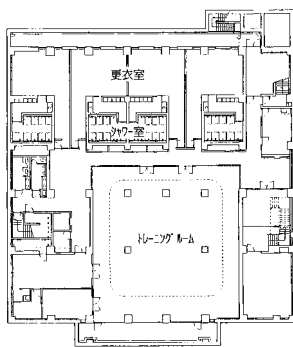
模擬法廷教室 1室 100

裁判官の席をはじめとして実際の法廷室と同じような構造の「特色ある教室」であり、臨場感ある模擬裁判等の授業を可能にします。傍聴席部分は、通常の教室と同じような机と椅子とを設けることとしています。各種のマルチメディア機器が装備され、模擬裁判はもちろん、ディベート等のためにも活用が期待されています。

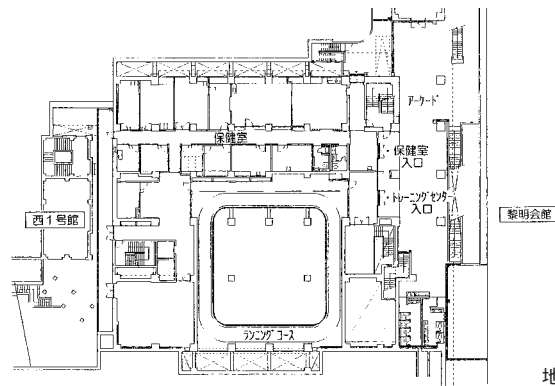
小教室 4室 40～60

以上のように、新教室棟は、学生生活のあらゆる面でのサービス向上を図ることを目的として、正課及び課外活動のための最先端の設備を有するものであり、学習院大学の教育及び学生生活の新しい中心となることが期待されています。高速通信技術の驚異的な発達により、大学における「キャンパス」の意味が問い直されている今、新教室棟が魅力ある大学づくりに資することもあわせて期待されます。

新教室棟 平面図



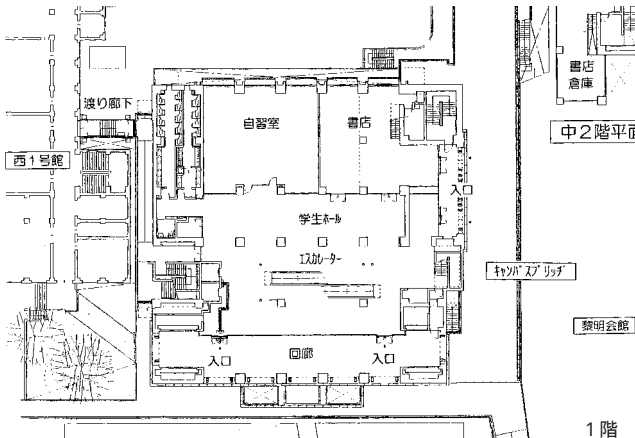
地下2階



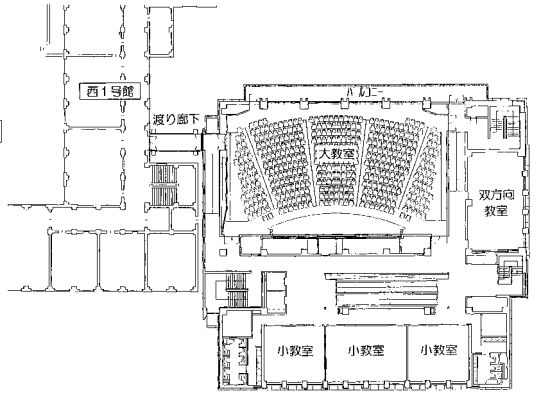
地下1階



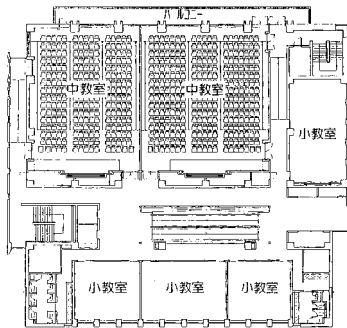
新教室棟 平面図



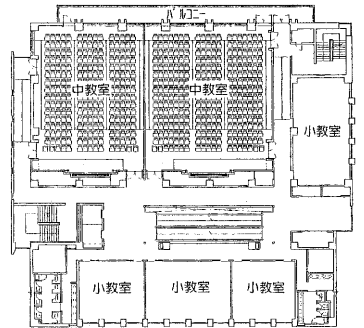
1階



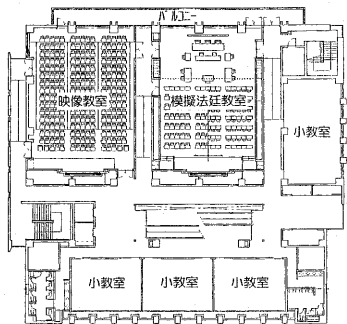
2階



3階



4階



5階

血洗いの池の水質浄化と周辺整備の工事が始まる



現在の血洗いの池

「血洗いの池」は学習院キャンパスの西側に位置しており、まだ武蔵野の自然の面影が残る森の中でその美しさを見せています。血洗いの池は、湧き水でできた池で、昔は灌漑に用いられ、水門もありました。学習院の構内になってから、高田の馬場の決闘で有名な堀部安兵衛が血刀を洗ったという伝説ができ、「血洗いの池」と呼ばれるようになり、今日でも多くの方々に親しみ愛されています。

ところが、この血洗いの池も近年になって、細々と湧き出ていた地下水が都会特有の雨水浸透不足と池付近の諸工事等により枯渇し、土砂まじり雨水の流入、滞留による濁り、水生植物・生物の減少や護岸の崩壊などのため、池の生態系と、周辺環境が悪化してまいりました。

この池を学習院の風格ある自然の財産として、また、学生、生徒や卒業生等の憩いの場として保持していくために、「学習院二十一世紀計画」の基本構想である「風格ある緑のキャンパスの再構築」の一環として、「血洗いの池とその周辺」の整備が検討されてきましたが、いよいよ今年の六月から従前の血洗いの池に取り戻すための整備工事に着手いたしました。

整備工事は「血洗いの池」の復元と永く保存することを目的としていますが、その内容は、池の護岸のため南側に自然石を積み重ね、他の部分には自然風とするために擬木を用い、池の一部及び周辺に水生植物や地被類など植栽を施し、池の北西部に避難路となる木製の八つ橋を設けます。また、池に堆積のヘドロ等を取り除く浚渫（しゅんせつ）を行い、池の水を循環させる設備を設けるとともに、池に入る雨水などは沈砂槽を経由するなど、池の浄化のための施設工事も行います。

これらの工事が完了し、植栽植物と周辺樹木などが繁茂する二～三年後には、自然の中の誰にも親しまれる「血洗いの池」に再生され、自然に浸りながらの散策と憩いの場となるようにします。完成予定は今年十月末頃です。

この「血洗いの池」の整備と既に完成の富士見会館、十四年完成予定の大学新教室棟及び完成後に行う教室棟周辺の緑化整備、並びに十四年度に着手予定の西門周辺整備など一連の工事が完了すると、目白キャンパスの西側エリアの景観が大きく変わることになります。



血洗いの池整備計画

ホッケー部の歩み

元学習院父母会会長
校友会理事
日本ホッケー協会理事
内藤 政武

平成十一年秋の関東女子大学リーグ戦十月十七日対成城大学戦において、学習院大学女子ホッケーチームは4対0で圧勝し、一部リーグ第三位を確保しました。しかも二位東京農業大学とは勝ちを惜しいところで逃して引き分けているので、実力的には二位に等しいと言えます。チームを結成以来、たった四年目の快挙でした。関東大学リーグは四部まであるので、価値ある一部三位です。ホッケー界でも噂があちこちに広まりました。学習院強し、と。

平成十一年十一月十三日ホッケー部は創立七十年を迎えて、記念式典を目白で行いました。島津院長、賀陽校友会会長始め学習院、ホッケー関係者多数参加のもと行われましたが、女子ホッケーのこの強さは、永いOB活動の積み重ねが大きな要素になっていると思います。よく言われることは、ホッケー部はOBの活動が盛んだから、「良い」と。

学習院と学生との絆、愛校心は学生生活を終了して社会人となっても何処までも、延々と続きます。ホッケー部卒業生は社会に出てからも、

学習院を思い、目白を思い、現役学生のリーグ戦の戦績を心配し日々を送っています。ホッケー部卒業生の団結は学生の部活動を強力に支えているのです。

昭和四年ホッケー部結成

学習院ホッケー部は今を遡ること七十二年前にこの目白の地に産声をあげました。活動を始めたのは昭和四年であり、正式に輔仁会に認められたのは昭和六年になります。学習院高等科の軍事教練教官に戸山学校から榊原大尉が赴任され、続いて遠山少佐が見え、着任早々「武課」の時間にホッケーの試合が取り入れられました。これは両先生とも戸山学校の有名なホッケー選手だったことに由来します。両先生はゴール、スティック、ボールを揃えて武課の授業のみならず休み時間放課後にスティックを弄れるようにしてあったので、好きな連中がスティックを振り回し始めました。秋になると、チームが編成出来るようになり、東京帝国大学ホッケー部長の井口常雄教授にコーチを願い、試合が出来そうな状態になってきました。

第一回インターハイ出場

昭和四年十二月、帝国大学ホッケー部の企画により、全国旧制高等学校にホッケー普及の目的で、第一回全国高等学校ホッケー選手権大会が東京帝国大学御殿山グラウンドにおいて開催されました。参加校は六校で帝国大学連盟傘下の

高等学校、すなわち学習院高等科、台北高等学校、第三高等学校、成城高等学校、浦和高等学校、北大予科。

学習院最初の公式戦出場メンバーは次の通りです。

主将 北大路信忠 (五年卒)

富永 鉄夫

鈴木 甫 (五年卒)

蒲生 郷信 (五年卒)

山口 定男 (五年卒)

大村 清 (五年卒)

坪井 忠郎 (七年卒)

赤松 照彦 (五年卒)

高木 正順 (八年卒)

松平 精 (五年卒)

渋谷 在正 (九年卒)

野球部、ボート部、剣道部の応援メンバー混合チームでしたので、試合も第三高等学校に0対5で敗れました。その後プロパー部員が入部して、正式な学習院ホッケー部が成立し、昭和六年に輔仁會への入会が認められました。

第一期隆盛期到来

スティックを弄ぶ連中が集まって来ただけあって、成果はどんどん挙がって来ました。昭和六年第三回全日本高等学校ホッケー選手権大会(以下インターハイ)優勝、昭和七年八年九年関東高等学校リーグ三年連続優勝、昭和八年九年



昭和8年(1933)頃 於目白
後列左より北大路(義) 島津、瀧川、佐藤、北大路(勇) 澁谷、中村、植村、山田、周布
中列左より有地(熊) 副島(憲) 町尻、室町(昌) 大木(保) 副島(典) 有地(次)
前列左より水野一人おいて保利二人おいて小林、渡部

インターハイに連続優勝と、創部五年にして数々の優勝杯を獲得しました。当然名選手が続出し、この時の学習院ホッケーの技術が後々まで引き継がれ、今日の繁栄があると考えられます。その時代の主要メンバーは次の通りです。

周布公兼、副島種典、中村路一、佐藤讓、山田義元、渋谷在正、渋谷言忠、小笠原清信、有地次郎、六所五郎、北大路信勇、北大路信義、有地熊蔵、今城政典。今なお有地次郎は健在で、学生のリーグ戦を応援のためグラウンドに顔を出します。

その後昭和十二年、十三年、十四年と関東リーグ二部(この当時は大学高校混合)で連続優勝し十五年には台湾へ初めて遠征試合を行いました。創部以来十数年で学習院の中で、ホッケー

一部強し、と言う評価を揺るぎないものとしたのです。

第二期隆盛期(昭和二十三年から)

ホッケー部に黄金期が訪れました。第二次世界大戦も終わり、まだ東京が焼け野原になっていた頃、昭和二十一年には犬養康彦、松平忠久が入部し二十二年には窪田裕一、黒川眞幸、佐野和夫、松平尚次郎、大島護久、緒方幸三、上田宗良等が入部して、OB伊東渉、浅田俊二、町尻量光の援助、指導の下、その素質を生かして着々と力を付けて行きました。

そして昭和二十三年には国民体育大会関東予選決勝で慶応高校に1対0で勝ち、出場権を得て、福岡での本大会では決勝まで進み、惜しくも札幌商業高校に0対3で敗れ二位となりました。ここで学習院の名は全国に轟くこととなりました。その後学習院高等科は国体に昭和二十七年まで関東代表としての出場が続きました。学習院が新たに学習院大学となった昭和二十五年、関東大学ホッケーリーグ二部として初参加しましたが、早速五戦全勝優勝し、一部に昇格しました。

試合結果

対東京歯科大学	不戦勝
対一橋大学	8対0
対東京大学	10対0
対成城大学	12対2
対武蔵大学	10対1

中心的選手であった黒川、上田、松平忠久、窪田、緒方、佐野の卓越した技術を基に見事なパスワークと安定したバックスは絶賛を浴びたものでした。この年の第一回四大学定期戦は楽勝でした。

対武蔵大学	10対0
対成城大学	11対0

ついに関東大学リーグ一部二位に

そしてこの強さは二十六年には更に上昇して、関東リーグ一部の二位にのし上がりました。

対慶応大学	2対0 勝ち
対明治大学	0対3 負け
対法政大学	6対1 勝ち
対立教大学	5対2 勝ち
対早稲田大学	3対2 勝ち



昭和26年(1951)
この年の秋期関東学生一部リーグ戦で対明大の一敗のみで二位を獲得した時のメンバー。戦後から現在に至るまでの最強のチームと云えるのではないだろうか。後列左より小坂(昇) 円谷、佐野、黒川、上田 主将、李家
前列左より本田、松平(忠) 松平(尚) 窪田、緒方



昭和30年（1955）第29回全日本選手権大会
 於神戸K.C.A.C.グラウンド
 当時の全日本はフリーエントリー制で全学習院として
 OB、現役混成で出場した。学習院が全日本でベスト
 4入りしたのははじめて。
 後列左より中村（光） 岩城（小泉） 小坂（登）
 緒方（OB） 林、伊東（監督） 小坂（昇） 桐谷、田倉
 前列左より黒川（OB） 浅田（OB） 町尻（OB） 窪
 田（OB） 松平（尚）（OB）

この時の最強メンバーは次の通り

- F W 本田春義 二年
- F W 松平尚次郎 二年
- F W 松平忠久 四年
- F W 窪田裕一 三年
- F W 金 時習 一年
- H B 円谷 一 二年
- H B 黒川眞幸 二年
- H B 緒方幸三 二年
- F B 佐野和夫 三年
- F B 上田宗良 三年
- G K 小坂昇一郎 三年

この年日本代表チームがインドに一ヶ月半遠征しましたが、この代表選手の中に黒川眞幸が選ばれました。



昭和31年（1956）於旧駒沢球技場
 うしろでゲームを観戦している姿に注目されたい。慶
 大または立大の学生とみられるが、当時の体育会の典
 型的なスタイルで学帽にコート着用。
 後列左より田倉、中村（光） 矢部、桐谷、柴田
 中列左より伊藤（輝） 岩城（小泉） 天野
 前列左より内藤、鈴木（康） 山崎

その後もホッケー部は関東学生リーグで一部で揺るぎない地位を保って、昭和三十年の全日本ホッケー選手権大会には準決勝に進みベスト4になったのです。

三十年代は潜伏期

三十三年から二部へ転落してからの十年間は一部との往復となりました。甲南大学との定期戦が始まりましたが、第一回は5対0と圧勝したものの、四十三年にはどん底の三部に転落してしまいました。

潜伏期脱却して海外遠征始まる

この後飛田孝監督（三十八年卒）を迎えて一挙に三部からあつという間に一部に昇格しました。明治大学に教えを乞い、強化合宿、韓国遠征等々新機軸を打ち出して良くチームをまとめ

たのです。この時から現在まで続いている海外遠征は四年毎に実行されていますが、これは在学中に必ず海外遠征がある、と言う事により、優秀な部員獲得の機会が増えるなど、現在のホッケー部充実の基礎が固まったと言えます。

四十八年韓国遠征のメンバー。

- 団 長 飯坂良明教授（ホッケー部長）
- 監 督 飛田 孝
- コ ー チ 深谷弘士 関谷 隆 桜井直己
- 主 将 池田幸雄
- 選 手 奥田道彦 野口 亨 山田 実
- 積 洋一 横溝昌宏 野崎博典
- 長井広司 福本雅夫 亀田尚裕
- 小林 進 竹口友章 石井庸一
- 薦野 潔

高円宮殿下インターハイにご出場

高等科ホッケー部に高円宮殿下がご入部になりました。運動神経も良くメキメキと上手になりになり、四十六年の徳島でのインターハイに学習院は出場権を得て、殿下もライトハーフとして活躍されました。二回戦で御坊商業高校に4対2で逆転勝利しました。しかし三回戦では日本一と言われる星光学院高校と対戦することとなり、0対7と大差で敗退しましたが、その後インターハイの出場枠が少なくなり、あまり出場出来ないでいます。殿下のご出場は貴重な実績です。

また大学チームも今日の平成に至るまで一部と二部を往復してはいますが、レベルから見ると、この二十年間上位を保っていると言えます。

女子チーム誕生と大活躍

冒頭にも書いたように、現在女子ホッケーの活躍が見事です。平成六年の春、帰国子女の新年生谷村康子以下が女子チームを作りたいたいと言う強い意志のもとチーム結成に務めました。そして紆余曲折はありましたが、正式に学習院輔仁會ホッケー部女子チームが誕生しました。二年目からメンバーが揃い、早速関東大学ホッケーリーグ戦に参加しましたが、女子大学はホッケーブームで関東だけでも二十校を越えており、四部からのスタートとなりました。監督に就任した高田良太(六十二年卒)の巧みな指導のもと、気力充実、練習熱心、研究心旺盛のため、三部昇格、二部昇格を一気に果たし、あっという間に一部昇格を果たしました。平成十一年には二位と引き分けながら三位となり、ホッケー界で一躍有名になりました。平成十一年開催の東西対抗戦には代表選手に大原知子、須磨映理子、翌年には荒木郁子の三名が選ばれる等、ホッケー部第三期の隆盛期が続いています。これらの原動力となったメンバーは次の通り。谷村康子、日月玲子、山本彩恵子、神武友子、河野真弓等々です。女子部員も四十名に増え、現役部員は男女大学高等科を含めて八十名。創部

以来の大人数で、その昔部員難で苦勞した事が嘘のようです。しかしこれにはOBである桜校会の活動が基盤となっているのです。

(社)日本ホッケー協会会長に

学習院卒業の上田宗良

OBになってからもホッケー界と関わりを持つ活躍している者が数多くいます。その最も頂点は上田宗良(二十八年卒)です。第二隆盛期でフルバックで活躍し、卒業後は日本開発銀行の業務の傍ら、国際ホッケー連盟の仕事にも専心し、オリンピックには絶えずホッケー役員として運営に関わり、現在は(社)日本ホッケー協会会長、国際ホッケー連盟常務理事、アジアホッケー連盟副会長、(財)日本オリンピック委員会副会長を経て特別顧問、また青森で開催される二〇〇三年冬季アジア競技大会組織委員会副会長に青森県副知事と共に就任し、ホッケーを通じて世界のスポーツ振興に貢献しています。

その他には内藤政武(三十五年卒)が日本ホッケー協会理事、釈洋一(五十二年卒)が関東ホッケー連盟理事、飛田孝(三十八年卒)が大阪ホッケー協会副会長、深谷弘士(四十一年卒)が東京ホッケー協会理事、濱口孝文(五十八年卒)が日本学生ホッケー連盟理事として現在活躍しています。過去にも中村光良(三十四年卒)が日本社会人ホッケー連盟専務理事として実業



昭和53年(1978)於飯能市
第27回全日本学生選手権
左より三人目藤村(公)、外山、高橋、菊池、井上

団関係のホッケー隆盛に貢献するなど、ホッケースポーツ振興のために役立っているOBが数多く存在するのも、他の運動部と違ふところであり、特徴であると思います。

目白ホッケー祭り

年に二回目白のグラウンドで行われるホッケー祭りは、男女の現役OBが三〇名近く集まって六人制ホッケーを楽しみます。二〇チーム以上が競う会場は大変盛り上がりを見せ、ひと昔前では考えられない盛況ぶりです。

これも第一隆盛期から育まれた学習院ホッケー魂が連綿と引き継がれて今日に至って開花したと言えます。これからも更なる前進を目指す学習院輔仁會ホッケー部でありたいと考えています。

学校法人学習院の

財政状況について

1. はじめに

平成13年3月28日の理事会・評議員会および5月25日の理事会・評議員会におきまして学校法人学習院の平成13年度予算、平成12年度決算がそれぞれ承認されました。

あらゆる社会システムの基礎となる教育について、今日ほど規制緩和と連動した形で個性化・自由化・多様化に向けた取り組みが進展している時期はありません。初等教育から高等教育まで、グローバル化や高度情報化等のキーワードを背景に、競争的な環境の中で、社会や学生生徒等のニーズにタイムリーに応えた教育改革プログラムを不断に推進していくことでしか私立学校としての存在基盤を確立できない時代となっています。

これまで平成3年度から11年間にわたって教学面および経営面の指針としてきました「学習院二十一世紀計画」につきましても、平成13年度で最終年度を迎えることとなります。計画の着実な進行により、

大学・大学院から幼稚園までの全教育課程段階において、ハード・ソフト両面の改革・拡充整備を行ってまいりました。今後は量的拡大が見込めない経営環境となり、財務面の舵取りは一層難しい課題を背負っていく局面となりますが、単年度、1年間だけの収支頭末に一喜一憂することなく、それを土台として中長期の計画や視野を念頭に、本院を支えてくださる関係者各位との一層の連携を強めていきたいと考えております。

この4月には情報公開法が施行され、公的機関については一層の情報開示を推進する責務、アカウンタビリティの遂行責任の度合いが拡大しています。これまでも学校法人学習院全体の財政運営の考え

方や現況をご報告してまいりましたが、引き続き関係各位への過不足のない情報提供ができるよう検討を重ねてまいります。

2. 平成13年度予算について

学校法人における予算書は、すべての資金の流れとその頭末を示す「資金収支予算書」と各年度における収支の均衡状態や財政の健全さを見る上での指標となる「消費収支予算書」の2つの形態があります。それぞれ別表1および別表2のとおりであります。

大学においては、臨時定員増分の漸減が平成12年度から始まったことにより中長期的に財政への影響が大きくなる等、財政を巡る課題は複雑化してきていますが、まず支出構造の見直し、弾力化、経常的経費の抑制、見直しが求められるところであり、総合的な視点で引き続き抑制策の提案、実行を各学校との協議にはかつていく予定であります。

なお、予算編成の基本事項となる平成13年度事業計画のうち重点事項となるものには、新たに設定した戦略事業として、(1)大学における3つの事業、「高度化へ向けた整備」事業としての法科大学院を視野にした体験講義、「教育・研究の情報化整備」事業、「事務部門の情報化整備」事

業)、(2)女子大学における「廃棄物無排出学園構想と環境教育」と「東欧関係教育プログラムシンポジウム開催」、(3)初等科におけるLAN整備・情報化基盤整備、の各事業、大学新教室棟の建築推進による教育環境の一層の整備充実、学生サービスの質的向上の推進、完成年度を迎える女子大学においては、教育研究基盤の確立と第一期の卒業生送り出しに係る支援策、高等科・幼稚園の各学校にあっては、施設設備整備の進展を背景とした教育プログラムの改編および一貫教育体制の強化連携の推進、中長期的な人件費政策の策定と具体的な人件費の見直し等の先行的実施、事務部門における業務処理の効率化とクライアント・サーバ方式による諸事務システムの点検、構築の推進、などが挙げられます。

引き続き、消費収支予算に基づき、収入および支出の主要な点について説明を行います。

収入の部について

収入の柱である納付金収入については、(1)女子大学を除き各学校の納付金を改定したこと、(2)完成年度を迎えて編入学定員を含め1学年分の380名が増加となる女子大学での増収効果があるため、総額で131.3億円と前年度比で6.4億円の増になっています。中長期的には学生数の減少および経済社会環境の変化に伴う納付金収入の漸減傾向は避けられず、収入構造の見直しと収入源の多様化をはかっていく必要がある

別表1 資金収支予算

単位：百万円

科目	13年度	12年度	増減
収入の部			
学生生徒等納付金収入	13,128	12,489	639
手数料収入	749	793	44
寄付金収入	546	525	21
補助金収入	2,183	2,321	138
資産運用収入	412	376	36
資産売却収入	470	390	80
事業収入	432	406	26
雑収入	708	768	60
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	2,727	2,687	40
その他の収入	1,412	2,289	877
資金収入調整勘定	2,687	2,711	24
前年度繰越支払資金	14,233	12,949	1,284
収入の部合計	34,313	33,282	1,031

支出の部			
人件費支出	10,611	10,462	149
教育研究経費支出	3,401	3,156	245
管理経費支出	1,190	1,108	82
借入金等利息支出	72	104	32
借入金等返済支出	734	650	84
施設関係支出	1,305	2,222	917
設備関係支出	480	567	87
資産運用支出	1,624	1,710	86
その他の支出	61	61	0
予備費	288	299	11
資金支出調整勘定	0	0	0
次年度繰越支払資金	14,547	12,943	1,604
支出の部合計	34,313	33,282	1,031

別表2 消費収支予算

単位：百万円

科目	13年度	12年度	増減
消費収入の部			
学生生徒等納付金	13,128	12,489	639
手数料	749	793	44
寄付金	592	574	18
補助金	2,183	2,321	138
資産運用収入	412	376	36
資産売却差額	19	0	19
事業収入	325	298	27
雑収入	708	768	60
帰属収入合計	18,116	17,619	497
基本金組入額合計	2,086	2,431	345
消費収入の部合計	16,030	15,188	842

消費支出の部			
人件費	10,677	10,404	273
教育研究経費	5,291	4,810	481
管理経費	1,182	1,088	94
借入金等利息	72	104	32
予備費	241	238	3
消費支出の部合計	17,463	16,644	819
当年度消費支出超過額	1,433	1,456	23
前年度繰越収入超過額	675	1,038	363
翌年度繰越支出超過額	758	418	340

主要分析比率(%)			
学生納付金 / 帰属収入	72.46	70.88	1.58
補助金 / 帰属収入	12.05	13.17	1.12
人件費 / 消費支出	61.14	62.51	1.37
教育研究経費 / 消費支出	30.30	28.90	1.40
管理経費 / 消費支出	6.77	6.53	0.24
人件費 / 学生納付金	81.33	83.31	1.98

ります。

入学検定料が中心の手数料収入は、受験者数の漸減傾向を受けて、7.5億円に減少していますし、2番目に大きな収入規模である補助金収入についても、国庫および東京都とも経常費補助金額が減少傾向にあり、総額で21.8億円となっており、両者だけでも前年度比で1.8億円の減少を見込んでいます。

資産運用収入においては、受取利息・配当金収入に関し若干の金利上昇を加味した予算とし総額で4.1億円となりましたが、依然平成3年度当時との比較では1/6規模にまで減収となっています。

事業収入の主なものは受託研究料、生涯学習センター受講料等で、前年度並みの3.2億円となっています。外部資金獲得のための受け皿としてこれらの収入の拡大策を推進していくこととなります。

雑収入は毎年一定の規模ですが、退職金支出の増加により私大退職金財団交付金の変動する結果として総額で7.1億円となっています。

その結果、帰属収入は181.2億円となり、前年度比で5.0億円、2.8%の増となっています。帰属収入に対する納付金の比率は72.5%となっており、一層納付金への依存度が強まっており、今後も学内外の有形無形の資源、資産、人的資源の総力を生かしながら収入の多様化に向けた努力をしていくこととなります。

基本金については、前年の大学新部会室棟竣工に続き、新教室棟の建築がスタートするためその建設

費として8.6億円の計上や、黎明会館の空調設備工事2.0億円等の大型施設設備経費が含まれています。2号基本金からの取崩しや、施設・営繕費の総枠を1億円減じる等の措置を行い、収支バランスに配慮した予算編成となっています。また、高・中・等科新校舎建築時の長期借入金返済0.8億円も今年度から開始されるなど、組入総額は20.9億円となっています。

支出の部について

人件費については、前年に引き続き9.7億円に及び退職金支出（資金収支）が含まれるため、総額で106.8億円、前年度比で2.7億円の増となっていますが、最も注意を要する給与・福利費の伸びとしては1.4%増に抑えられた結果となっています。初任給の引下げや職員総数の10%削減の実施、雇用の多様化の促進等の政策も開始されており、退職金を除いた人件費の伸びは抑制傾向にあります。人件費依存率は81.3%と2ポイント下がりましたが、依然各中学校間での格差も顕著となっていることから、引き続き「数」と「単価」両面から人件費の適正化に向けた抜本的な見直しを行うていくこととなります。

教育研究経費および管理経費は、各学校および法人各部門の予算配付額分と法人管理の支出科目からなりますが、総額で教育研究経費は52.9億円、管理経費は11.8億円となり、各々高い伸び率となっています。

これらの中には戦略枠としての事業費分が含まれていることや、基本金と教育研究経費の入り組み等の

要素もあるため、単純な伸び率では比較できない面もあります。経常的経費の支出抑制、コスト増要素の見直しは最優先課題となっており、引き続き施設整備の進展に伴う諸経費、光熱水費、業務委託費、減価償却額等の、ランニング・コスト、メンテナンス・コストの増に対しても一層の抑制政策が求められます。管理経費については、全院的な事務電算システムの見直し、構築作業の本格化に伴う経費増等の事業経費、舎宅の整理統合政策による取壊し費用等が含まれています。

消費支出総額は174.6億円となり、前年度比で8.2億円の増、伸び率も4.9%となっています。以上の結果、平成13年度も14億円台の支出超過予算となっています。健全な指標としては予算段階でも収支均衡がはかられ、プラス、マイナス0となることが望まれますので、競争的環境の中で経営力をさらに強化し財政基盤安定のための取り組みを推進してまいります。

3. 平成12年度決算について

まず全体の消費収支状況から見ると、平成12年度は3.8億円の消費支出超過となっています。

当初予算では14.6億円、第二次補正予算では11.8億円の消費支出超過の見込みでありましたが、決算にお

いては3.8億円の支出超過に抑制することができま
した。9年続きでの支出超過決算であります。その
赤字幅は減少傾向にあります。二十一世紀計画の進
捗により、施設整備への資金投下が続いてきた結果、
累積の消費収入超過額は8.6億円になっています。

収入の部について

学生生徒等納付金は、女子大学において3学年ま
での体制になったこと、および女子大学を除く各学
校の納付金を改定したことにより、法人全体で前年
度比5.3億円増の17.8億円となっています。平成12年度
から大学において臨時定員増分の漸減がスタートし

ており、納付金の在り方についても、引き続き新し
い経営環境に相応しい個々の授業料の単価の問題と
入学学生数の確保の問題の両面からの検討を続けて
いくものとしています。手数料は入学検定料収入が
主なものであり、大学においては受験者数が前年度
比で9%落ち込んだことにより、7.5億円と、0.5億円
の減収となりました。大学全入時代の到来が予想さ
れ、受験校数の絞りこみも一層進むことから、手を
こまねいていれば減少の一途をたどっていくため、
今後、外部に向けては広報活動の活発化をはかり、
内部的には新たな受験者層の掘り起こしに繋がるよ
うなハード・ソフト両面にわたる教育改革を実行し
ていく必要があります。寄付金は、新入生父母に対
象とした教育研究施設拡充資金の募金については、
昨今の厳しい経済環境・社会環境下にありながら、

3.3億円と前年度より0.2億円の増加となり、また、二
十一世紀計画募金その他についても、多方面からの
募金協力を頂いており、奨学金基金および国際交流基
金に対する寄付金も合計で2.2億円となり、前年を上
回る成果をあげることができました。現物寄付分を
加えた全体では7.6億円となり、前年度比較では0.4億
円の増加となっています。各基金の拡充・充実とい
う観点からも引き続き募金体制の強化、幅広いネッ
トワーク構築等の課題に取り組んでいくこととなり
ます。

補助金は全体では前年度比で1.7億円減少の23.8億円
となっており、国からの大学・女子大に対する経常
費補助金、都からの高等科・幼稚園の経常費補助金
がともに大幅減となった影響を受けています。今年
度は、大学における3年目のマルチメディア教室整
備事業、東2号館の学内LAN整備2件で0.5億円、
初等科における耐震補強工事の0.6億円の補助金が含
まれています。

事業収入の中には西11号館の整備とともに本格化
した生涯学習センターの受講料を含んだ附属事業収
入、4年目を迎えた日本学術振興会からの「未来開
拓事業」を含んだ受託事業収入、等が含まれており、
受託研究分の減少を補う形で、生涯学習センターで
は着実な事業規模の拡大によって、初めて収入規模
が1億円の大台を上回っており、総額ではほぼ前年
度並みの4.9億円となりました。その他の収入動向と

しては、依然底は見えていないものの、経済不況と
連動した資産運用収入の落ち込みがやや回復基調に
転じたこと（前年度比で受取利息配当金が0.4億円の
増加）や、退職金支出の増加に連動した、雑収入の
私立大学退職金財団交付金の増（前年度比で2.5億円
の増加）等があげられます。

以上の結果、帰属収入の合計は18.5億円となり、前
年度との比較では5.9億円の増加となりました。納付
金に依存しない体質を目指しながらも、各収入とも
自助努力だけで拡大できる状況にはないため、今後
の大学の学生数漸減の進行とあいまって、財政の見
通し、展望には予断を許さないものがあります。

基本金は学校法人の設置する各学校が行う教育研
究の条件を、永続的に維持向上させるための不可欠
な資産をとらえた概念で、経常的な施設設備整備や
図書費のほか、二十一世紀計画の推進としての施設
事業等が含まれています。総額で19.9億円の規模とな
り、納付金の16%を充てることとなり近年のうちで
はやや小さな規模となりました。

平成12年度の主な事業としては、2つの土地・建
物物件の取得（旧第5出張所跡地、（株）ジャパン
建材社屋「西13号館」と、大学における新部会室棟
竣工および戸田艇庫の竣工、さらには初等科本館の
耐震補強工事、などが挙げられ、おのこの資金収支
においては、「施設関係支出」「設備関係支出」に、
消費収支においては、「基本金組入額」に計上されて

別表3 資金収支決算

単位：百万円

科目	12年度	11年度	増減
収入の部			
学生生徒等納付金収入	12,777	12,243	534
手数料収入	752	804	52
寄付金収入	717	686	31
補助金収入	2,381	2,548	167
資産運用収入	436	411	25
資産売却収入	399	267	132
事業収入	577	608	31
雑収入	649	416	233
借入金等収入	0	1	1
前受金収入	3,095	2,951	144
その他の収入	3,381	1,956	1,425
資金収入調整勘定	3,727	3,576	151
前年度繰越支払資金	12,970	11,996	974
収入の部合計	34,407	31,311	3,096

支出の部			
人件費支出	10,333	9,870	463
教育研究経費支出	3,204	3,038	166
管理経費支出	991	1,074	83
借入金等利息支出	104	136	32
借入金等返済支出	650	703	53
施設関係支出	2,486	1,235	1,251
設備関係支出	576	578	2
資産運用支出	1,902	1,609	293
その他の支出	389	408	19
資金支出調整勘定	1,185	310	875
次年度繰越支払資金	14,957	12,970	1,987
支出の部合計	34,407	31,311	3,096

別表4 消費収支決算

単位：百万円

科目	12年度	11年度	増減
消費収入の部			
学生生徒等納付金	12,777	12,243	534
手数料	752	804	52
寄付金	761	722	39
補助金	2,381	2,548	167
資産運用収入	436	411	25
事業収入	490	509	19
雑収入	649	416	233
帰属収入合計	18,246	17,653	593
基本金組入額合計	1,987	2,569	582
消費収入の部合計	16,259	15,084	1,175

消費支出の部			
人件費	10,427	9,907	520
教育研究経費	4,981	4,789	192
管理経費	992	1,067	75
借入金等利息	104	136	32
資産処分差額	133	72	61
徴収不能引当金繰入額	0	0	0
消費支出の部合計	16,637	15,971	666
当年度消費支出超過額	378	887	509
前年度繰越収入超過額	1,242	2,129	887
翌年度繰越収入超過額	864	1,242	378

主要分析比率(%)			
学生納付金/帰属収入	70.03	69.36	0.67
補助金/帰属収入	13.05	14.44	1.39
人件費/消費支出	62.67	62.03	0.64
教育研究経費/消費支出	29.94	29.99	0.05
管理経費/消費支出	5.96	6.68	0.72
人件費/学生納付金	81.61	80.92	0.69

別表5 貸借対照表

単位：百万円

資産の部		負債・基本金・消費収支差額の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	63,089	負債の部	12,645
有形固定資産	47,358	固定負債	7,366
その他の固定資産	15,731	流動負債	5,279
流動資産	18,941	基本金の部	68,521
現金預金	14,957	第1号基本金	61,155
未収入金	791	第2号基本金	1,929
有価証券	3,147	第3号基本金	4,387
その他	46	第4号基本金	1,050
		翌年度繰越消費収支差額	864
合計	82,030	合計	82,030

います。

今後の計画としては大学の新教室棟の着工、女子大学における新校舎建築の検討も進んでおり、資金的な制約の中で各キャンパスの中長期的なマスタープランの確立と財政的に無理の無い形での執行という政策の調和が何よりも求められています。

支出の部について

人件費全体では143億円となり、前年度比で5.2億円の増加となりました。この要因は資金収支上の退職金支出が、5.0億円から8.7億円に大幅増となったため、給与・福利厚生費部分の伸びは、人事院勧告に準拠してベア率がゼロとなったこと、雇用の多様化の推進などにより1.07%にとどまっており、学生生徒等納付金に占める人件費の割合である人件費依存率も81.6%となり、少し落ち着きを見せています。

しかしながら、支出の2/3を占める人件費に対し、教育研究の質の充実、人材の強化育成に配慮しつつも、適正規模の策定を視野に、教職員の総定員、配置の見直しや雇用形態の弾力化・多様化の促進といった具体的な検討見直しを行っていく必要に迫られています。

教育研究経費は総額で49.8億円となり、前年度に対して1.9億円の増、率にして4.0%の増となりました。基本金組入額との入り組みもあり、営繕費が3.9億円から5.3億円に増加した要素も含まれており、その分を除く伸び率は1.12%となり、抑制基調が見られます。

す。

直接的な教育研究を支える支出科目であり、何よりも優先的に各学校・学部においては予算財源の確保に配慮されなければなりません。一方で建築事業の推進に伴うランニング・コスト、メンテナンス・コストといった経常的な維持管理費用の伸びを抑制していく必要があります。一層の節減策、合理化の推進を課題としています。管理経費においては、全体で0.7億円の減少となっています。ここでも、業務委託費などの伸びが著しく、経常的な経費の支出抑制の徹底に向け具体策を早急に展開していく必要に迫られており、今後の競争的な環境下にあつて、納付金改定の限界が近づくなかで一層の教育研究条件の充実、教育改革の推進を行いながら、一方で収入支出を均衡させ、財政基盤の安定化を目指すという課題の克服には多大な努力が求められています。

資金収支決算および消費収支決算の詳細は、以下の別表3および別表4のとおりであり、別表5は、資産の保有状況を表わす平成13年3月31日現在の貸借対照表となっています。

4. びすび

財務運営の基本的な考え方としては、大学における学生数の漸減という長期的傾向を抱え、私立学校

における狭隘な収支構造上の制約からも、財政的課題を速やかに解決する特効薬的な手段があるわけではないため、引き続き収入準拠の姿勢に基づき、懸案である中長期的な人件費政策、施設計画を基とした基本金政策、経常的な経費の支出抑制策について、具体的な取組を強力に推進していきたいと考えています。より小さな予算で、より上質なより効率的な運営執行が可能となるよう、リエンジニアリングを常にめざしていくこととなります。

新規事業の展開に際しては資金需要が拡大していくことも予想されますが、経営体としての安定化、経営力強化に努め、効率化、合理化の実を上げていく所存でありますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。グローバル化、高度情報化が急速に進展する今日、大学をはじめとする各学校の教育研究の振興は、私たち国民のみならず人類全般の未来に対する先行投資であり、また責務でもあります。学校関係者一同このことを深く自覚し、教育改革の不断の実行とその基盤整備に向けてさらなる努力を傾けていく覚悟の一端をご披露するとともに、本院の教育事業運営に対する一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

停年退職者

所感

学習院の益々の発展を祈る 金子 宏



学習院に在籍したのは、平成八年四月から同十三年三月までの五年間でしたが、この五年間を通じて常に充実した毎日を送ることができました。ここに法学部の同僚諸氏をはじめとして、お世話になったすべての方々に厚くお礼を申し上げます。学習院の学生は、他の大学の学生に比べて、一般にジェントルで折目正しく、しかも明るいと思います。この学生気質は、長年の伝統によって培われてきたものですが、今後とも引き継がれてゆくことを希望します。

学習院においても、今後、大学院（法学部についていえば、ロー・スクール、政治行政学院）の重要性が増大してゆくと思われまふ。学習院が、時代の要請に応じて、学部レベルでも大学院レベルでも

益々の発展をとげることを心から祈ります。

（元大学法学部教授、専門は租税法）

感謝

吉岡 曠



私は学生時代から数えると、半世紀以上、学習院にお世話になってきました。つまり、人生の大半を学習院で過ごしたわけです。

恩師にめぐまれ、同僚にめぐまれ、職員の方々にめぐまれ、なかなかすぐ学生諸君にめぐまれて過ごしました。私の半世紀以上の人生はまことにしあわせであったとしか申し上げようがありません。有難うございました。

ところで、これからのことなのですが、えてして大学者というのはボケやすいものだ聞いております。私も、どうやらボケるのではないかという予感がかんりの強さでしております。たまたま私のことを思い出して下さいましたならば、今ごろは恍惚として幸せに過ごしているのだらうなあと、ご想像ください。

（大学名誉教授、元大学文学部教授、専門は日本文学）

目白の冬木

猪俣 浩

目白に勤めて（非常勤の期間も含めれば）三十数



年、誠に平凡な感想ながら、長いようでもあり、一瞬の間のようにもあります。優しいのを売物にしたりせず、学生によく怒りましたが、別に

後悔はしておりません。これをバネにして一人前になつてくれれば、私の（叱るという）苦勞も無駄でなかつたでしょう。現在の心境を、歌人佐藤佐太郎の歌に託します。憂ひなくわが日々はあれ紅梅の花すきてよりふたたび冬木

（大学名誉教授、元大学文学部教授、専門はルネサンス期英文学）

思い出すこと

工藤 昭雄



私が学習院大学文学部助手となつたのは昭和二十八年四月のことでした。八年間在勤したのち東京都立大学文学部に転じ、昭和五十九年からまたあらためて学習院に勤務することとなり、本年三月に停年を迎えるまでお世話になりました。都立大学に勤務していた間も学習院の非常勤講師をしていましたので、四十八年もの間目白のキャンパスに通い続けたことになりました。それだけに数限りない思い出がありますが、なかでも記憶に焼きついてい

るのは、発足して間もない小さな貧しい大学に漲っていた気宇の大きさでした。学習院らしいこの闊達な学風をいつまでも守っていただきたいものです。

(元大学文学部教授、専門は英小説・批評)

停年を迎えて

青木 順三



桜が咲いて散り、新緑の季節からやがて梅雨の舗道の水たまりにひっそりと影を映す紫陽花の花。毎年何気なく見慣れて来た校庭の風景です。

この心地よい環境とももうお別れなのだなどというものが、停年を迎えて改めて強く感じた第一の思いでした。国立大を停年になって十年、私の人生のいわば締め新时期を、こうした美しいキャンパスで、しかも優れた同僚に囲まれ、余裕をもってさまざまな人生体験を重ねている真面目な学生たちの中で過ごすことができた幸せを、いま改めてかみしめています。お世話になったすべての方々にはただ感謝のばかりありません。(元大学文学部教授、専門はドイツ文学)

幻の辛夷

杉山 正樹

現在の新本部棟が建つ前、その場所にあった古色蒼然たる講堂の斜め右前に一本の大きな辛夷の木があった。早春になるとまだ肌寒い澄んだ空にむけて



ていました。思えば、大学はその頃が新しい酒を新しい革袋に盛らねばならぬ時期に当たっていたのでしよう。しかし、毎年春が近づくと、白い花のドームがもとあった場所に幻となって立ち現れ、華麗な桜の開花に近いことを予告してくれるのです。(大学名誉教授、元大学文学部教授、専門は仏文学)

来し方とこれから

齋賀 久敬



このたび停年を迎えるまで、三十八年間学習院大学に勤務させていただきました。毎日その時その時の仕事に追われていた思いだけが残っていました。長かったような短かったような。その間にはいろいろのことがあったのを思い出します。私にとって最も大きな変化は、最初に所属した哲学科から別れて心理学を新設することになったことでした。以来二十五年心理学を他大学のそれらに劣らぬものにするに努力してきました。しかしその結果は、今後にかかっています。学問も大学も大きく変動しつつある時期、これから

どのような変化が起こるのでしょうか。(大学名誉教授、元大学文学部教授、専門は認知・発達心理学)

雑感

小川 智哉

私は三十余年、理学部物理学に勤務したが、他の私学に比べて格段と良い研究環境を与えていただいた事に感謝している。特に、各研究室に一人助手をつけていただいたことは、教育上も研究上にも何物にも換え難いメリットであった。優れた環境のゆえに、理学部に属しているスタッフは各自の専門分野で高く評価され、また、指導的立場にあることを誇りに感じつつ精進してきた。

しかし、物理学のスタッフは9人。これでは、物理学の範疇に入る基本分野をカバーすることはできない。したがって、学生さんは自分が専攻したい分野が学習院に無い場合には他所の大学院に進学すべきであるし、私達の分野を専攻したい人達は他大学から学習院に来る。この当然の事象を促進するために、また、学習院の優れた研究環境を社会に提供するために、大学院授業の夜間開講を含めて、大学院の社会への開放を是非始めていただきたいと思う。

最近、独立行政法人化で揺れている大学があるが、このような学校は、官立学校から学校法人として独立した学習院を参考にすべきであるし、独立行政法人化した学園の大先輩として範をたれ得る学校であって欲しいと思っている。

(大学名誉教授、元大学理学部教授、専門は結晶物

理工学)

(ご本人の希望により顔写真の掲載は省略いたしました)

停年を迎えて

後藤 幹保



欧米の留学を終え、学習院大学理学部に着任したのは昭和三十六年十二月であり、停年までの三十九年余りの間お世話になりました。

この間、教職員の方々と新進気鋭の学生の入達の若い情熱に接し、今思えば乏しい設備の中で、ともに希望に満ちた研究生活を過ごすことができたことは、私にとりましても財産であり、またこの間、昭和五十三年八月には百年記念事業(スイスCiba-Geigy社寄付)により生物実験棟が完成し、化学物質の生態系生物への影響の研究を開始できたことは大きな展開でした。今回退職にあたり、これを学外において継承できることになりました。さらに前進できる喜びも学習院とともに歩んだ経過と感謝致します。

(大学名誉教授、元大学理学部教授、専門は有機化学)

生命分子科学研究所設立への感謝

三浦 謹一郎

学習院には生徒・学生としての十六年間と大学教



授としての十年間お世話になりましたので思い出は一杯ありますが、ここでは誌面も限られていますので、最近の十年間理学部生命分子科学研究所の建設と運営に携わった者として読者の皆様方へいただいた御支援に対する感謝の気持ちだけでも述べておきたいと存じます。

十二、三年前内藤院長や江沢理学部長や同窓会の方々が発案され、二十一世紀計画事業の一つとして学習院大学に不可欠な生命科学の研究と教育の場が設置されることになり、平成三年生命研の所長として私が赴任することになりました。

スタートして間もなく、バブル経済がはじけて大変なことになってしまいましたが、学習院当局をはじめ、学習院出身者や学生・生徒の保護者の皆様や学外の有志の方々から絶大な御援助を賜りましたことは本当にありがたいことと存じます。この場を拝借して厚く御礼申し上げます。

(元大学理学部教授、専門は分子生物学、生化学)

「恵まれた生涯」

須田 信正

国語科では(主管でなくても)、たいてい一つの学年を三年間持ち上がるので、その間他の学年は少ししか教えられません。そこで在任三十八年間に卒業していった生徒総数の三分の一強を教えたことになります。それでも、概算でなんと三千人弱に達し



ます。その人たちに日本の古典について、人並みのことは教えたつもりです。けれども、彼等から教わったことの方がずっと多いと思います。世の中に、これ程多数の人間に接して、色々な考え方を生き方を教わることのできる職業は、ほかにないでしょう。少なくともここまでは、大変恵まれた生涯であつたと思っています。

(名誉教授、元高等科教授、担当は国語)

「拝啓 高等科の皆様」

相馬 公義



初夏の薰風の下、皆様にはお元気で過ごしのことと拝察申し上げます。

学習院を停年退職して二ヶ月になろうとしていますが、いまだ浪人の身を実感としてとらえられず、長い休みの延長のような気分です。

四月からの私は、これまでは日曜日の礼拝に行っていたルーテル教会へ週二日程通い、事務処理の他教会の様々な用事を手伝っています。信仰の支えとなる自分のための行いが、多くの人々に感謝される結果を生み、満ち足りた気持ちで一日一日を過しています。

高等科のカレンダーを思い出しながら皆様の御健

康と御活躍を祈っています。

敬具

(名誉教授、元高等科教諭、担当は保健体育)

富士を見る

山本 恭平



目白まで通っていた間の、朝夕の楽しみは富士や丹沢の山々を眺めることでした。代々木駅にさしかかる手前と神田川付近の二か所はかなり長い間見えていましたが、今はほとんど見えないと言っています。

中等科の校舎は平成十年に新築され、四階の主管室から富士山が見えるようになりました。一年五組の教室は、もっとよく見えて、冬などわざわざ五組へ行って、新雪の富士山を眺めてから授業をしたこともありました。

目白の森が、いつまでもみずみずしさを失わず、「高く貴き、布土の高嶺」のような人たちが巣立っていくことを祈っております。

(名誉教授、元中等科教諭、担当は国語)

出会い・時の流れ

高橋 義雄

昭和三十八年学習院初等科に奉職した時の院長は、安倍能成先生でした。翌年は東京オリンピック、



っています。

初等科のある四谷駅周辺の変化はありますが、初等科までの並木道などの良き環境と児童・父母・教職員の出会いに恵まれ三十八年間初等科に勤務できた事や最後には初等科長として職責を果たした事への感謝の気持ちとお礼を申し上げます。昭和から平成、二十世紀から二十一世紀と時の流れを感じますが、変わらぬ良い伝統の継承と新二十一世紀計画の前進発展を期待します。

(名誉教授、元初等科長)

低学年の子どもと

香坂 彪



私が公立学校から初等科に赴任したのは、昭和四十年でした。以後、理科専科を十数年、主管を二十年余りさせていただきました。

主管としては、七学年に関係させていただきました。この中で五学年は、一年生から担当させていただきました。

一・二年生はなかなか言葉が通ぜず教えるのは大

変ですが、成果が表れるのも鮮明で、大きな喜びを感じる事ができます。学級が良い方向に回転を始めると、毎日が楽しく生き甲斐を感じます。このような素晴らしい思い出を贈ってくださいました子供たちに感謝すると共に、初等科の発展を願ってやみません。

(名誉教授、元初等科教諭、担当は算数科)

みな様のお陰

高川 進作



初等科・幼稚園の勤務を合わせ、三十二年十月を学習院で過ごさせて頂きました。

その間、特に心に残ることとしては、多くの方々のご支援で初等科にオーケストラを創設し、音楽活動に専念できたこと、更に学習院ジュニアオーケストラの創設に参加し、音楽による学習院一貫教育の推進にお手伝いできたこと、そして幼稚園ではみな様のご協力で園舎を新築し新しい幼稚園の第一歩を歩ませて頂いたことなどです。

振り返ってみますと、在職中は新しいものをつくる機会に恵まれ、幸せな学習院での生活でした。これもみな様のお陰と心より感謝致しております。

(名誉教授、元幼稚園長)

大学就職状況

大学就職部長 後藤 昭彦

日本経済はバブル崩壊後の長引く不況から依然として脱け出せていません。そのような中で、企業は新卒者の採用を抑制してきましたが、次代を背負う人材を確保するために、最近、新卒者の採用を拡大する動きをみせています。未だに厳しい環境下にはありますが、薄日が射すような明るさがでてきたように感じられます。

若干就職を取り巻く環境が好転したとはいえ、実際に就職活動に汗した平成12年度卒業生の就職状況がどうであったかを、最近の動向を交えてご紹介いたします。

8年ぶりに女子の就職率が男子を超えました。(全体93.5%、男子91.9%、女子94.9%)

ここ数年の動きとして、2桁採用企業も10社前後になりました。

その2桁採用企業は、「銀行・信託」「生命保険」「損害保険」などが上位を占めています。採用企業を産業別に分類し、採用者の多い順に並べてみますと、情報サービス、リース、特殊法人等を含む「その他サービス業」、続いて「銀行・信託」「小売」「卸売」「生命保険」「公務」の順になっています。産業別分類を大括りにしてみますと、「サービス業」35.1%、「金融業」25.2%、「製造業」18.4%、「商業」13.9%、「公務・教育」7.4%になります。さらに、採用企業を規模別に分類してみます

と、従業員数別では「千人以上の企業」に65.95%、資本金別では「十億円以上の企業」に48.66%、上場別では「東証一部上場企業」に35.07%の学生が採用されました。

心配された女子学生の就職については、個々の対応において「男女雇用機会均等法」に低触するような事例があったのかも知れませんが、に示すように総体的には杞憂に終わり、安堵しています。

全体の傾向としては、例年のとおりIT関係、金融関係を中心とした大企業志向で就職活動が行われ概ね順調であったように思われます。

超氷河期と呼ばれた時期にあっても、本学の就職率は90%を保ち、今もつてこのような好結果を保ち続けているのは、学生個々の地道な努力と相応しい能力があつてのことだと思われませんが、就職セミナー、企業説明会、課外セミナーなどを通して桜友会会員奉仕委員会や職域桜友会などの多くのOB、OGに支えられていることを忘れることはできません。就職部一同感謝申し上げます。本学学生をご採用いただいた、あるいは今回が縁がありませんでしたが求人票をお寄せいただいた各企業の関係各位に対し厚く御礼申し上げます。これからも皆様のご期待に添うような人材育成に向けて努力してまいります。

平成12年度就職状況

就職先企業名				就職先企業名					
	男	女	計		男	女	計		
1	みずほフィナンシャルグループ	5	26	31	三菱信託銀行(株)	0	7	7	
2	(株)東京三菱銀行	3	13	16	日興証券(株)	1	6	7	
3	安田生命保険(相)	4	11	15	ジェーシービー	3	4	7	
4	(学)学習院	1	13	14	20	キュービー(株)	2	4	6
5	東京海上火災保険(株)	1	11	12	日本アイ・ピー・エム	2	4	6	
6	(株)三井住友銀行	2	9	11	(株)大和証券グループ本社	1	5	6	
	第一生命保険(相)	2	9	11	日本通運(株)	4	2	6	
	野村証券(株)	2	9	11	住商情報システム(株)	2	4	6	
	警視庁	7	4	11	ダイワボウ情報システム(株)	1	5	6	
10	(株)三和銀行	2	7	9	26	(株)イトーヨーカ堂	2	3	5
	住友生命保険(相)	1	8	9	八千代銀行	3	2	5	
12	(株)あさひ銀行	1	7	8	安田火災海上保険(株)	3	2	5	
	日本生命保険(相)	2	6	8	(株)ジェイティービー	3	2	5	
14	三井ホーム(株)	2	5	7	(株)インテック	5	0	5	
	(株)日立製作所	5	2	7	セコム(株)	2	3	5	
	住友信託銀行(株)	1	6	7	千葉県市町村(除：千葉市)	1	4	5	

(以下省略)

女子大学の就職支援

第一期生ががんばっています

女子大学総務部長 佐野 眞

平成十年四月に開学した女子大学は、いよいよ第一期生が四年生になるところまで成長いたしました。初めての就職活動に対する女子大学としての支援をどのように力を入れてゆくか、早くから学長以下大きな課題として議論を重ねてきましたが、それ以上に学生たちの中に「先輩がいない」という孤立感と不安が大きいのしかかっていることのほうが問題でした。しかし、事務全体の規模があまりにも小規模なために、独立した担当部門をもてないという現実を前にして、学内外の心配は膨らむばかりでした。全学的な協力が得られるよう、学長の提案で、学部長を議長とする「進路指導会議」を組織しました。

三年生全員に呼びかけて、個人面談も受け付けました。具体的な問題がおこったとき、気軽に相談にこられるよう最初のきっかけとなればよいと考え、これを実施しました。

大きな力となっているのは、学習院に学んだ卒業生たちが学校を超えて、「学習院のOB・OG」として女子大学の学生に接してくださっていることです。多数の卒業生の協力を得て、面接対策セミナーも実施することができました。

三月の初め実に三十六名のOB・OGが、忙しい時期にもかかわらず日曜日を丸一日割いてくださいました。百四十名に近い学生が参加し、一グループ五、六人という賢沢な面接セミナーでした。

女子大学の行事のほか、目白で開催されるセミナーや、毎年目白で行われてきた「企業説明会（職域校友会）」にも、大学就職部の配慮で参加することができ、毎日大勢の女子大生が目白キャンパスへ通いました。

第一期生たちはがんばって活動をしている姿を頼もしく見守りながら、「本当によかった」といえるような職場にめぐり合うことを願っています。そして、新三年生の就職支援スケジュールも、もう動き出しています。

新しい奨学金制度のスタート

平成14年度より、学習院大学と学習院女子大学の奨学金制度が次のように大きく変わります。

(大学・女子大学)

【学習院大学奨学金・

学習院女子大学奨学金(仮称)】

従来の「学習院奨学金」を大幅に充実(人数・貸与額等)した、無利子、長期返還の貸与奨学金システムがスタートします。

この奨学金は、学費支弁が困難なため、大学進学を断念したり、入学後、アルバイトに時間を取られることにより、勉強意欲が低下したりすることのないよう、学業に専念できる環境を整える目的で、意欲ある学生を、大学、女子大学が応援する制度です。

貸与額は、学費納付金のうち、授業料と維持費相当額以内で、納付金のほとんどが貸与対象です。

(大学)

【入試成績優秀者特別給付奨学金(仮

称)】

一般入学試験に上位で合格した入学者に給付する奨学金がスタートします。この奨学金は、学部一般入学試験における、各学部の上合格者50名中の入学者に対して、入学年度の授業料と維持費相当額を奨学金として給付する制度です。

平成13年度より【学習院父母会奨学金】制度(大学・幼稚園)がスタートしました。

学習院在學生(大学・幼稚園)の父母・保証人の死亡等により家庭の事情が急変し学費の支弁が困難になったと認められる、勉学に熱意のある者に対して給付されます。



人事

役員人事
退任理事
高橋 義雄
内藤 政武

就任理事
齊藤 進
香取 純一
小堀 正晴

以上平成十三年三月三十一日付
学習院初等科長
学習院父母会副会長兼幹事長、(株)香取宝飾代表取締役
学習院父母会副会長、遠州茶道宗家十三世家元
(以上任期平成十三年五月二十五日から平成十四年九月六日まで)
以上平成十三年五月二十五日付

新科長紹介



齊藤 進
(さいとう・すすむ)
初等科長

平成十三年四月一日付で
嘱任。任期は平成十三年四月一日から平成十六年三月三十一日まで。同科長は平成十年四月から平成十三年三月まで初等科教頭をつとめた。



小山 久子
(こやま・ひさこ)
幼稚園長

平成十三年四月一日付で
嘱任。任期は平成十三年四月一日から平成十七年三月三十一日まで。同園長は平成五年四月から平成十三年三月まで幼稚園主任教諭をつとめた。
新任の教育職役職者

法学部長
大学

野坂泰司教授

経済学部長
文学部長
理学部長
法学科主任

政治学科主任
経済学科主任
経営学科主任
日本語日本文学科主任
心理学科主任
物理学科主任
数学科主任

経済経営研究所長
人文科学研究所長
生命分子科学研究所長
図書館長
教務部長
学生部長
計算機センター所長

女子大学
日本文化学科主任

初等科
児童課長
幼稚園
主任教諭

教員の昇格
教授に昇格
大学

助教授に昇格

森田 道也教授
永田 良昭教授
小谷 正博教授
長谷部由起教授

坂本多加雄教授
岩田規久男教授
田中 伸英教授
吉田 敦彦教授
相馬 壽明教授
荒川 一郎教授
中島 匠一教授

遠藤 久夫教授
堀越 孝一教授
芳賀 達也教授
黒田 成俊教授
高木 光教授
塩谷 清人教授
以上13・4・1付
入澤 寿美教授
13・5・1付

尼ヶ崎 彬教授

須藤 恭友教諭
桑田 幸子教諭
以上13・4・1付

教士直紀(法学部)

米山正樹(経済学部)
武内房司(文学部)
原田佳彦(文学部)
入澤寿美(計算機センター)

山下純司(法学部)
Brown, Phillip Rowland
(外国語教育研究センター)

以上13・4・1付
新任教員
大学

平野 浩 教授(法学部)
金指 正雄 特別客員教授(法学部)
任期13・4・1~14・3・31
淵 圭吾 講師(法学部)
小西 秀樹 教授(経済学部)
栗澤 哲夫 特別客員教授(経済学部)
任期13・4・1~14・3・31

白田由香利 助教授(経済学部)
外山みどり 教授(文学部)
Pekar, Thomas 教授(文学部)
兵藤 裕己 教授(文学部)
眞野 泰 助教授(文学部)
芳賀 達也 教授(理学部)
藤澤 有 客員教授(理学部)
任期13・4・1~14・3・31

渡邊匡人 助教授(理学部)
狩野智洋 助教授(外国語教育研究センター)
熊井信弘 助教授(外国語教育研究センター)
水野雅司 助教授(外国語教育研究センター)

高等科
石田 良徳 教諭(保健体育)
岩垂 雅子 教諭(地理)
久岡 敏郎 教諭(英語)
山本 章博 教諭(国語)

中等科
松本 和博 教諭(国語)

初等科
諸戸 加織 教諭
米井 慎一 教諭
野々田明香 養護教諭

幼稚園
佐川絵里子 教諭

以上13・4・1付

停年退職者
大学

金子 宏 法学部教授 5年在職
田島 義博 経済学部教授 37年7ヶ月在職
吉岡 曠 文学部教授 38年在職
猪俣 浩 文学部教授 30年6ヶ月在職
工藤 昭雄 文学部教授 17年在職
青木 順三 文学部教授 10年在職
村田 經和 文学部教授 42年在職
杉山 正樹 文学部教授 40年在職
齋藤 久敬 文学部教授 38年在職
小川 智哉 理学部教授 38年在職
後藤 幹保 理学部教授 39年4ヶ月在職
三浦謹一郎 理学部教授 10年在職

高等科
須田 信正 教諭 40年在職
相馬 公義 教諭 39年在職

中等科
山本 恭平 教諭 選択停年31年在職

初等科
高橋 義雄 科長 38年在職
香坂 彪 教諭 35年11ヶ月在職
高川 進作 園長 32年10ヶ月在職

事務職員
齋藤 幸雄(財務部参与) 47年在職
木田 勝久(施設部参与) 40年在職
曾根 隆(施設部用務主任) 12年在職
熊澤夕輝子(大学図書館参与) 選択停年42年11ヶ月在職
田村 節子(女子大学総務部主事) 選択停年35年11ヶ月在職
甲木 義美(女子高等科・女子中等科主事補) 21年11ヶ月在職

以上13・3・31付

平成13年度入学試験結果一覧表

大学院（進学者数を含む）				大学								
研究科	学別	募集人員	志願者数	合格者数	学部別	入試方法	募集人員	志願者数	合格者数			
博士前期課程	法学	10	14	7	法学部	一般	528	4,466	1,106			
	政治学	10	24	8		外国・海外帰国		44	16			
	経済学	10	7	2		推薦		77	77			
	経済学(社会人)	若干名		1	進学	107	107	経済学部	一般	3,855	1,065	
	経営学	10	15	6	外国・海外帰国	17	12		推薦	104	104	
	経営学(社会人)	若干名		10	進学	70	70		一般	5,451	1,486	
	人文科学	85	244	83	文学部	外国・海外帰国	645	72	23			
	自然科学	36	62	48		推薦		169	169	進学	44	44
自然科学(数学・数Ⅱ)	若干名		0	社会人		45		12	外国人	28	10	
博士後期課程	法学	3	0		理学部	一般	162	1,376	385			
	政治学	5	7	5		外国・海外帰国		0		推薦	27	27
	経済学	3	3	2		進学		15	15	社会人	2	1
	経営学	3	3	2	各科および幼稚園							
	人文科学	18	42	23	学校別	入試方法	募集人員	志願者数	合格者数			
自然科学	9	5	5	高等科	一般	約10	110	29				
女子大学（国際文化交流学部）				女子中等科								
学科	入試方法	募集人員	志願者数	合格者数	女子中等科	海外帰国子弟	約15	67	39			
	一般入試A	70	390	151	進学	一般	約120	325	120			
日本文化	一般入試B	30	456	107	女子中等科	海外帰国生	約20	61	20			
	一般入試C	若干名	43	10	進学	一般	80	800	80			
	海外帰国生	6	9	6	進学	一般	52	52	52			
	推薦入試A	50	59	59	幼稚園	一般	52	262	52			
	推薦入試B	若干名	0		博士學位記授与							
	女子高等科生推薦入試	若干名	1	1	~政治学~	渡辺 良明	澤 博勝	湯澤 聰				
	社会人	4	5	4	博士論文 マハートマー・ガンディーの政治思想	博士論文 近世の宗教組織と地域社会 教団信仰と民間信仰	博士論文 真核生物のシグナル伝達に関わるマルチドメイン蛋白質の構造に関する研究					
	社会人編入(3年次)	20	17	14	授与年月日 平成13年4月19日	授与年月日 平成13年6月21日	Study on the structure of multi-domain protein in eukaryotic signal transduction					
	外国人留学生	10	7	7	授与年月日 平成12年11月16日	授与年月日 平成13年3月9日	授与年月日 平成13年3月9日					
	一般入試A	70	1,090	301	~経済学~	菅原 琢磨	~日本語日本文学~	伊布拉ヒム フリード ファルルーク				
一般入試B	30	690	126	博士論文 研究開発を中心とした医薬品の産業組織の理論的・実証的研究	博士論文 アラビア語・日本語の語彙構造の比較対照とそれに基づく「アラビア語シンソラス」の作成	博士論文 血液を微量に添加した塩化第二銅の飽和水溶液から晶析したデンドライトの晶癖						
一般入試C	若干名	33	7	授与年月日 平成13年3月9日	授与年月日 平成13年3月9日	生態情報抽出を目指して						
海外帰国生	6	26	10	授与年月日 平成13年3月9日	授与年月日 平成13年3月9日	授与年月日 平成13年3月9日						
推薦入試A	50	52	52	~経営学~	海老根敦子	朴 鐘升	秋山 英雄					
推薦入試B	若干名	6	4	博士論文 品質管理とコミュニケーション・リンケージの形成	博士論文 古代日本語動詞原型の機能	形態論的範疇としてのテンスの認否と関連して	博士論文 Nucleotide sequence of plasmid pAQ1 of marine cyanobacterium Synechococcus sp. PCC7002.					
女子高等科生推薦入試	若干名	0		授与年月日 平成13年3月9日	授与年月日 平成13年3月9日	授与年月日 平成13年3月9日	博士論文 A Novel plasmid recombination mechanism of the marine cyanobacterium Synechococcus sp. PCC7002.					
社会人	4	6	4	Ramanauskas Gediminas	博士論文 COMPARATIVE STUDY OF ECONOMIC COMPETITIVENESS (経済競争力の国際比較)	授与年月日 平成13年3月31日	授与年月日 平成13年3月9日					
社会人編入(3年次)	20	16	11	博士論文 幕末維新期の外交と貿易	授与年月日 平成13年3月9日	~史学~	鵜飼 政志					
外国人留学生	10	22	13	授与年月日 平成13年3月9日	授与年月日 平成13年3月9日	博士論文 専門用語の一般化に関する計量的研究	博士論文 光散乱トモグラフィ法による結晶格子欠陥の検出と同定					

平成十三年度の各学校の入学試験における志願者数、合格者数は、左の表のとおり。なお、平成十四年度入学試験に関しては、大学は入学課へ、女子大学は入試係へ、及び高・中等科、女子中等科、初等科、幼稚園はそれぞれの事務室にお問い合わせください。

平成十三年度入学試験結果

博士學位記授与

- ~政治学~
渡辺 良明
博士論文 マハートマー・ガンディーの政治思想
授与年月日 平成13年4月19日
- ~経済学~
菅原 琢磨
博士論文 研究開発を中心とした医薬品の産業組織の理論的・実証的研究
授与年月日 平成12年11月16日
- ~経営学~
海老根敦子
博士論文 品質管理とコミュニケーション・リンケージの形成
授与年月日 平成13年3月9日
- Ramanauskas Gediminas
博士論文 COMPARATIVE STUDY OF ECONOMIC COMPETITIVENESS (経済競争力の国際比較)
授与年月日 平成13年3月31日
- ~史学~
鵜飼 政志
博士論文 幕末維新期の外交と貿易
授与年月日 平成13年3月9日
- 穂鷹 知美
博士論文 近代ドイツにおける都市生活と緑の関わり
世紀転換期のライブツィヒを中心に
授与年月日 平成13年3月31日
- 澤 博勝
博士論文 近世の宗教組織と地域社会 教団信仰と民間信仰
授与年月日 平成13年6月21日
- ~日本語日本文学~
伊布拉ヒム フリード ファルルーク
博士論文 アラビア語・日本語の語彙構造の比較対照とそれに基づく「アラビア語シンソラス」の作成
授与年月日 平成13年3月9日
- 朴 鐘升
博士論文 古代日本語動詞原型の機能
形態論的範疇としてのテンスの認否と関連して
授与年月日 平成13年3月9日
- 渡辺 泰宏
博士論文 伊勢物語成立論
授与年月日 平成13年4月19日
- 真田 治子
博士論文 専門用語の一般化に関する計量的研究
授与年月日 平成13年5月24日
- ~理学~
矢野 陽子
博士論文 X線反射率測定による分子性液体表面の構造研究
授与年月日 平成12年7月13日
- 湯澤 聰
博士論文 真核生物のシグナル伝達に関わるマルチドメイン蛋白質の構造に関する研究
Study on the structure of multi-domain protein in eukaryotic signal transduction
授与年月日 平成13年3月9日
- 芝田 高志
博士論文 血液を微量に添加した塩化第二銅の飽和水溶液から晶析したデンドライトの晶癖
生態情報抽出を目指して
授与年月日 平成13年3月9日
- 秋山 英雄
博士論文 Nucleotide sequence of plasmid pAQ1 of marine cyanobacterium Synechococcus sp. PCC7002.
A Novel plasmid recombination mechanism of the marine cyanobacterium Synechococcus sp. PCC7002.
授与年月日 平成13年3月9日
- 津留 俊英
博士論文 光散乱トモグラフィ法による結晶格子欠陥の検出と同定
授与年月日 平成13年3月9日
- 南郷 脩史
博士論文 赤外散乱トモグラフィ法によるシリコン単結晶の評価技術
授与年月日 平成13年3月9日

専任教員著作紹介

二〇〇〇・一〜十二



大学

法学部

大塚 直等著『環境法入門』 日経文庫 日本経済新聞社

岡 孝二共編『債権総論各論』 基本判例3 法学書院

金子 宏共編『グローバル戦略と国際税制 国際課税京都フォーラム第1回シンポジウムより』 清文社

金子 宏等著『税法入門』 第4版 有斐閣新書 A 61

金子 宏等著『パートナーシップの課税問題』 日税研論集 v.44 日本税務研究センター

金子 宏『租税法』 第7版補正版 法律学講座双書 弘文堂

金子 宏監修『会計全書 平成12年度会計法規編』 中央経済社

金子 宏監修『会計全書 平成12年度税務法規編』 中央経済社

金子 宏編著『税法用語事典』 4訂版 税務経理協会

紙谷雅子『編著』『日本国憲法を読み直す』 日本経済新聞社

河合秀和『訳』『ジョージ・オーウェル』ひとつの生き方(バーナード・クリック著) 岩波書店

河合秀和『訳』『21世紀の肖像 歴史家ホプズボームが語る』(エリック・ホプズボーム語り手アントーニオ・ポリート聞き手) 三省堂

河合秀和『比較政治・入門 国際情報を整理する』改訂版 有斐閣アルマ Basic 有斐閣

坂本多加雄等著『昭和史の論点』 文春新書 092 文芸春秋

芝原邦爾『経済刑法』 岩波新書 新赤版 670 岩波書店

芝原邦爾等著『ケースブック経済刑法』 有斐閣

数土直紀『自由社会の理論』 多賀出版

高木光共著『条約行政手続法』 弘文堂

田中靖政『原子力をめぐるコミュニケーションの課題』 現代政策研究所

戸松秀典『憲法訴訟』 法律学大系 有斐閣

野村豊弘編『法学キーワード』 有斐閣双書 有斐閣

野村豊弘等著『倒産手続と民事実体法』 別冊 ZBL no.60 商事法務研究会

福元健太郎『日本の国会政治 全政府立法の分析』 東京大学出版会

藤竹 暁編『消費としてのライフスタイル』 現代のエスプリ別冊生活文化シリーズ1 至文堂

藤竹 暁編『流行ファッション』 現代のエスプリ別冊生活文化シリーズ2 至文堂

藤竹 暁編『現代人の居場所』 現代のエスプリ別冊生活文化シリーズ3 至文堂

藤竹 暁編『図説日本のマスメディア』 NHKブックス 897 日本放送出版協会

藤竹 暁編『劇場型社会』 現代のエスプリ 400 至文堂

前田 庸『会社法入門』 第7版 有斐閣

渡部 晃『公序良俗入門』 商事法務研究会

経済学部

青木圭弘等監訳『ブランド・コミュニケーションの理論と実際』(ジョン・R・ロッターラリ・パーシー著) 東急エージェンシー出版部

青木圭弘等編著『ブランド構築と広告戦略』 日経広告研究所

岩田規久男『金融』 東洋経済新報社

岩田規久男『ゼロ金利の経済学』 ダイヤモンド社

岩田規久男編著『金融政策の論点 検証・ゼロ金利政策』 東洋経済新報社

岩田規久男『金融法廷』 日経ビジネス人文庫 日本経済新聞社

上田隆穂共著『マーケティング&リサーチ通論』 講談社

奥村洋彦『日本 泡沫経済 與金融改革』 走進世界金融叢書 中国金融出版社

小山明宏『経営財務論 不確実性、エージェンシー・コストおよび日本の経営』 増補改訂版 新しい時代の経営学選書22 創成社

辰巳憲一『確定拠出年金のあるべき制度について』 財形年金の研究からみた分析 経済経営研究所 discussion paper series No.0-1 学習院大学経済経営研究所

田中伸英等共著『インターネット時代の情報活用』 ワード・エクセル・パワーポイント・インターネット・サンウェイ出版

西村 陽『電力改革の構図と戦略』 電力新報社

湯沢 威等著『エレメンタル経営史』 Elemental books 英創社

米山正樹『原価配分のもとの簿価修正 減損の異議』 経済経営研究所 discussion paper series No.0-2 学習院大学経済経営研究所

川崎克哲『夢の読み方夢の文法』 講談社+新書 講談社

小林 忠編『美術関係雑誌目次総覧』 国書刊行会

小林 忠『歌麿の世界』 講談社インターナショナル

酒井 潔共著『Phänomenologie und Leibniz』 Verlag Karl Alber

佐佐木隆『上代物の表現と構文』 笠間書院

笹山晴生共編『続日本紀索引年表』 新日本古典文学大系別巻 岩波書店

篠沢秀夫『伝統からの解放』 篠沢フランス文学講義 4 大修館書店

篠沢秀夫『大洪水の時代』 篠沢フランス文学講義 5 大修館書店

篠沢秀夫『ワインの里の物語』 近代文芸社

下宮忠雄編著『世界の言語と国のハンドブック』 大学書林

諏訪春雄共編著『日本説話伝説大事典』 勉誠出版

諏訪春雄『歌舞伎の源流』 歴史文化ライブラリー 96 吉川弘文館

諏訪春雄編『日本人と水』 遊学叢書 11 勉誠出版

諏訪春雄『安倍晴明伝説』 ちくま新書 276 筑摩書房

相馬壽明編著『心理学 for you』 八千代出版

高埜利彦編『民間に生きる宗教者』 シリーズ近世の身分的周縁 1 吉川弘文館

中条省平『文章読本』 文藝に学ぶテクニク講座 朝日新聞社

中条省平『訳』『人喰い鬼のお愉しみ』(タニエルの誘惑) 白水社

鶴間和幸監修『秦の始皇帝と兵馬俑展』 辺境から中華へ 帝國秦への道 共同通信社

鶴間和幸共編著『中国』 NHKスペシャル 4 大文明 The four great ancient civilizations of the world 日本放送出版協会

橋本穂矩編訳『アイルランド短篇選』 岩波文庫 岩波書店

福井憲彦共編『都市の破壊と再生 場の遺伝子を解読する』 相模書局

福井憲彦共著『地中海都市周遊 カラー版』 中公新書 134 中央公論新社

堀越孝一『遺言の歌』 中 ヴィンロン遺言詩注釈 3 小沢書店

マレ・ティエリ共訳『Tenebre: version definitive』(吉田加南子著) 思潮社

山本政人等著『心理学のポイント』 学文社

山本芳明『文学者はつくられる』 未発遺書第9巻 ひつじ書房

吉田敦彦『神話のはなし』青土社

吉田敦彦『監修・編1』日本の神話』国際理解に

やくだつ世界の神話1 ポプラ社

吉田敦彦『監修』東アジアの神話』国際理解に

やくだつ世界の神話2 ポプラ社

吉田敦彦『監修』西アジアの神話』国際理解に

やくだつ世界の神話3 ポプラ社

吉田敦彦『監修・編1』ギリシャの神話』国際理解に

やくだつ世界の神話4 ポプラ社

吉田敦彦『監修』ヨーロッパの神話』国際理解に

やくだつ世界の神話5 ポプラ社

吉田敦彦『監修』アフリカの神話』国際理解に

やくだつ世界の神話6 ポプラ社

吉田敦彦『監修・編1』南北アメリカ・オセアニアの神話』国際理解に

やくだつ世界の神話7 ポプラ社

吉田敦彦『編1』世界の神話』Handbook of myths 新書館

吉田加南子『Teahoe: version definitive』思潮社

吉田加南子『言葉の向う』みすず書房

理学部

赤尾和男『共訳1』座標(イメージラフ)等著者)ゲルファント先生の学校に行かずにわかる数学2 岩波書店

赤尾和男『共訳1』代数(イメージラフ)共著者)ゲルファント先生の学校に行かずにわかる数学2 岩波書店

飯高 茂『共編著』数学科編 改訂 高等学校学習指導要領の展開 明治図書出版

江沢 洋『微積分の基礎と応用』新数理ライブラリM2 サイエンス社

江沢 洋『著書1』くりこみ群の方法』現代物理学叢書 岩波書店

江沢 洋『編』数理解物理への誘い―最新の動向をめぐって』遊星社

江沢 洋『共編』科学者の自由な楽園』岩波文庫 岩波書店

江沢 洋『共編著1』力学から相対論まで』物理

なぜなぜ事典1 日本評論社

江沢 洋『共編著』場の理論から宇宙まで。物理なぜなぜ事典2 日本評論社

高橋利弘等執筆1』低次元導体 有機導体の多彩な物理と密度波。改訂改題版 物性科学選書 裳華房

田崎晴明。熱力学 現代的な視点から。新物理学シリーズ32 培風館

田崎晴明等訳1』知の欺瞞 ポストモダン思想における科学の濫用(ヘアラン・ソール共著) 岩波書店

中島匠一。代数と数論の基礎。共立講座21世紀の数学 9 共立出版

教職課程

斎藤利彦『共編著1』近現代教育史。学文社

長沼 豊『編著1』実践・2000年代の特別活動 もしもあなたが教師なら 教員を目指す人のための教員の初任者研修のための。明治図書出版

計算機センター

入沢寿美等共著1』インターネット時代の情報活用 ワード・エクセル・パワーポイント・インターネット。サンウェイ出版

大学名誉教授

遠藤 浩『共編1』民法入門。第3版補訂版。有斐閣双書 有斐閣

遠藤 浩等編1』相続。第4版増補版。有斐閣双書 有斐閣

遠藤 浩等編1』親族。第4版増補版。有斐閣双書 有斐閣

遠藤 浩『共編1』法学入門。法学・日本国憲法。第4版。有斐閣新書。有斐閣

遠藤 浩等編1』総則。第4版増補訂版。有斐閣双書 有斐閣

遠藤 浩等著1』親族法・相続法。第5版。民法3 一粒社

遠藤 浩編1』民法総則。民法・第1条から第174

条ノ2まで。第5版。別冊法学ゼミナー。No.108。基本法コンメンタール。日本評論社

遠藤 浩『監修1』口語民法総則。改訂版。自由国民・口語六法全書。自由国民社

遠藤 浩『共編1』新借地借家法。第2版。別冊法学ゼミナー。No.107。基本法コンメンタール。日本評論社

大野 晋。日本語の形成。岩波書店

児玉幸多『監修1』藤沢山日鑑第18巻。藤沢市文書館

児玉幸多編1』日本史年表・地図。第6版。吉川弘文館

児玉幸多『監修1』奥州道中間延経図。第2巻。五街道道中間延経図。東京美術

児玉幸多『監修1』木曾路をゆく。費川宿。馬籠宿。歴史街道トラベルガイド。中山道の歩き方。学研

島野卓爾等編著1』EU入門。誕生から。政治・法律・経済まで。有斐閣

高田 淳。王船山易学述義。汲古書院

早川東三編1』デイリー・コンサイス独和・和独辞典。三省堂

山崎庸一郎訳1』プロボ(アラン著)みすず書房

山崎庸一郎監修1』星の王子さまの誕生。サン・テグジュペリとその生涯(ナタリー・デ・ヴァリエール著)「知の再発見」双書89 創元社

山崎庸一郎。星の王子さまのひと。新潮文庫 新潮社

山崎庸一郎訳1』南方郵便機。サン・テグジュペリ著)サン・テグジュペリ。コレクション1 みすず書房

山崎庸一郎訳1』夜間飛行。サン・テグジュペリ著)サン・テグジュペリ。コレクション2 みすず書房

山崎庸一郎訳1』人間の大地。サン・テグジュペリ著)サン・テグジュペリ。コレクション3 みすず書房

山崎庸一郎訳1』戦う操縦士。サン・テグジュペリ著)サン・テグジュペリ。コレクション4 みすず書房

山崎庸一郎共訳1』親愛なるジャン・ルノワールへ。テントワニス・ド・サン・テグジュペリ著)ギャップ出版

名譽教授

川嶋 優『監修1』語源辞典。たのしくわかることばの辞典1 小峰書店

川嶋 優。ことわざ辞典。たのしくわかることばの辞典2 小峰書店

川嶋 優。小学生の漢字辞典。たのしくわかることばの辞典3 5 小峰書店

女子大学

早川東三編1』デイリー・コンサイス独和・和独辞典。三省堂

江口泰広。IT革命で変わる新しいマーケティング入門。中経出版

久保田信之。男女平等で人間は幸福になれるか。國民會館

高等科

會田康範(共著)1』東アジア交流史事典。新人物往来社

岩崎 淳(分担執筆)1』日記文学事典。勉誠社出版

岩崎 淳(分担執筆)1』新しい表現指導のストラテジー。東京法令出版

岩崎 淳(共編)1』力のつくことばの学習50のアイディア。三省堂

土屋良太(共同執筆)1』物理なぜなぜ辞典。株式會社 日本評論社

田中一樹。森内隆雄(共監修)1』地球と環境21。美しい地球は今。21世紀の地球環境問題。2 新たな脅威。ダイオキシンによる汚染と環境ホルモン。3 地球とともに生きる。環境保全への取り組みと新しいライフスタイル。NHKソフトウエア

GAKUSHUIN NEWS



女子短期大学の廃止 認可される

平成十三年五月二十九日付で、女子短期大学の廃止が文部科学省により認可されました。これにより、正式に約五十年にわたる女子短期大学の輝かしい歴史に幕が閉じたこととなります。平成十年四月に女子短期大学の改組転換により女子大学が開設されましたが、女子短期大学卒業生等にとつて、その感慨は一人ではなにかと思われま

名誉教授の称号授与

学習院名誉教授

学習院名誉教授の称号が、平成十三年五月二十五日付で次の各氏に贈呈されました。

この称号は、学習院の専任教員として長年在職し、教育または学術に功績のあった方に退職後贈られるものです。

(学習院名誉教授)

須田 信正 元高等科教諭
相馬 公義 元高等科教諭
山本 恭平 元中等科教諭
高橋 義雄 元初等科長
香坂 彪 元初等科教諭
高川 進作 元幼稚園長
学習院大学名誉教授

学習院大学名誉教授の称号が、平成十三年四月一日付で次の各氏に贈呈されました。

この称号は、学習院大学の専任教員として長年在職し、教育・研究に特に功績のあった方に退職後贈られるものです。

(学習院大学名誉教授)

田島 義博 元大学経済学部教授
吉岡 曠 元大学文学部教授
猪俣 浩 元大学文学部教授
村田 經和 元大学文学部教授
杉山 正樹 元大学文学部教授
齋賀 久敬 元大学文学部教授
小川 智哉 元大学理学部教授
後藤 幹保 元大学理学部教授

学習院功労章贈呈される

本院の教育研究活動、事業運営に深い理解を示され、顕著な貢献をされた方々に對し、その功績を顕彰するとともに感謝の意を表して、次のとおり学習院功労章を贈呈いたしました。

学習院功労章

(個人) 奥津 好恵

吉岡 唯夫
箭内 克俊
吉田 久子
平成十三年三月二十七日付
(敬称略)

春の叙勲(役員・名誉教授・教職員)

勲三等瑞宝章

本橋 正(学習院大学名誉教授)

安倍賞受賞者決定

平成十二年度の安倍賞受賞者が次のとおり決まり、去る三月二十九日に表彰式が行われた。安倍賞は、安倍能成記念教育基金による事業の一つで、昭和五十年に設けられた。安倍能成記念教育基金は、故安倍能成学習院長の功績を永く記念し、その精神を後世に伝え、我が国の学術および教育の興隆に寄与することを目的に設立されたものである。安倍賞には学術賞と教育功労賞とがある。学術賞は、研究上の功績が抜群であつて学術の興隆への寄与がきわめて顕著な者に授与する。教育功労賞は、本院教育に顕著な功績があつたものに授与する。

学術賞

吉岡 曠(大学文学部教授)

平安文学を中心とした多年にわたる

優れた研究業績

猪俣 浩(大学文学部教授)
英文学を中心とした多年にわたる優れた文学研究の業績
工藤 昭雄(大学文学部教授)
英文学を中心とした多年にわたる優れた文学研究の業績

村田 經和(大学文学部教授)

国内外において高く評価されたドイツ文学・ドイツ文化研究、及びドイツ語教育の促進

杉山 正樹(大学文学部教授)

言語学、フランス文学を中心とする多年にわたる優れた研究の業績

齋賀 久敬(大学文学部教授)

認知・記憶の基礎的および発達の研究にかかわる優れた業績

小川 智哉(大学理学部教授)

光散乱トモグラフィ法による結晶格子欠陥評価法の確立と結晶物理工学への多大な貢献

後藤 幹保(大学理学部教授)

PETリジン化合物の先駆的研究と環境毒性学の確立

須田 信正(高等科教諭)

高等科の国語教育および日本語教育を通じての国際交流への貢献

相馬 公義(高等科教諭)

高等科の保健体育教育および学校行事・課外活動への貢献

山本 恭平(中等科教諭)

中等科における国語教育の充実・発展および生徒指導への貢献

高橋 義雄(初等科長)

長年にわたる一貫した初等教育の充実・発展及び本院の教育への献身と貢献

高川 進作(幼稚園長)

永年にわたる一貫した幼稚園・初等科における情操教育の充実・発展への献身と貢献

教職員の表彰・受賞

教職員氏名(受賞時の所属・役職を付した)以下は 表彰・受賞の名称

受賞年月日 授与者 表彰・受賞の理由の順に掲載しました。

大学

奥村 洋彦(経済学部) 教授

石橋湛山賞(第21回)

平成十二年九月八日

石橋湛山記念財団(東洋経済新報社後援)

著書『現代日本経済論』『バブル

経済』の発生と崩壊』による分析が経済と経済政策研究に貢献

八木陽子(スポーツ・健康科学センター)

体育功労者

平成十二年五月二十一日

東京都体育協会

東京都バスケットボール協会への

功績が認められた為

女子大学

今橋理子(国際文化交流学部) 助教授

第12回 國華賞

平成十二年十月二十七日

國華賞顕彰基金(朝日新聞社・国

華社共催)

著書『江戸絵画と文学』描写とことばの江戸文化史』(東京大学出版会)平成十一年十月刊)に

対して。

中等科

田中一樹 教諭

教育映像祭 小学校教材ビデオ部門優秀賞

平成十二年八月十八日

財団法人日本視聴覚協会

すぐれた教育用映像作品を制作したため。

幼稚園

小山久子 教育功労者表彰

平成十二年十月一日

東京都豊島区

幼児教育への功績が認められたため。

校友会創立八十周年記念式典

開催される

平成十三年一月二十日(土) 学習院創立百周年記念会館において、校友会

創立八十周年記念式典が皇太子殿下、

雅子妃殿下ご臨席のもと開催されました。午前十一時正堂において、君が代

斉唱のあと、賀陽治憲校友会長の式辞、

鳥津久厚学習院長、岩崎英二郎 成蹊

会会長の祝辞に続き、校友会功労者の

方々の表彰式がありました。校友会功労者を代表して東園基文氏の挨拶の後、院歌斉唱で閉式となりました。

正午より皇太子殿下による記念のご講演がありました。四百名近い聴衆を前に「学習院に学んで」と題して、サークル活動、入試アルバイトの経験など、幼稚園から学習院に学んできた思い出を約五十分にわたりご講演されました。

引き続き、午後一時から小講堂・三階会議室において、記念祝賀会が開かれ、終始和やかなご歓談のなか、盛況裏に祝賀会を終えることができました。

平成十三年度学習院公開講演

第五十五回目の学習院公開講演は、今年の七月十四日(土)に福岡市のホテル日航福岡において開催されました。

当日の講演は、前半の部で学習院大学文学部教授の篠沢秀夫氏(昭和三十三年本学文学部卒)が「文化的シャッターを外そう この歌を知っていますか」と題し一時間の講演を、後半の部に俳優の児玉 清氏(昭和三十三年本学文学部卒)が「人生の星輝く時」と題して一時間の講演が行われ、会場は市民の方々が満席となり、講演会は

大盛況の内に終了いたしました。

引き続き、学習院、学習院大学、学習院女子大学等の近況を報告する「卒業生・在学生父母の集い」、学習院役員の方々と福岡校友会、在学生父母との親睦・交流を図る「学習院・福岡校友会共催合同懇親会」が行われ講演会と共に盛会裏に終了いたしました。

第五十六回の学習院公開講演については、九月二十二日(土)の午後二時から、宮崎市のフェニックス・シーガイア ワールドコンベンションセンターを会場にしまして、NHK解説委員で学習院女子大学特別専任教授の平野次郎氏と華道家元池坊次期家元の池坊由紀氏(昭和六十二年本学文学部卒)の両氏を講演者としてお迎えし開催(無料)いたしますので、九州在住の多くの卒業生、在学生父母の方々のご来場を心からお待ちしております。

「学習院公式ホームページ」のオープンについて

学習院では、平成十三年四月より公式のホームページをオープンいたしました。ホームページについては、以前から公開しているページがありました。が、公式のホームページとして統一的に作成したものではありませんでした。

このため、平成十一年五月に学習院情報ネットワーク委員会が設置されたのを機に、同委員会を中心に全院的な

ホームページの検討を開始することになりました。丁度、それと機を同じくして、大学、女子大学においてもそれぞれ全学的にホームページを検討する情報化整備に関する委員会が設置されました。これにより、情報ネットワーク委員会では大学、女子大学部分の作成は両大学に委ねることとし、高等科から幼稚園までの各学校部分を含めた基本ページを作成することになりました。そして、大学、女子大学が作成したページと合せてこの四月に公式ホームページとしてオープンしたものです。

公式ホームページは、従来の単なる学校・組織別構成を一新し、必要な情報にできるだけ早くたどり着けるよう、そして分かり易い内容となるようデザインも工夫しています。特に、大学のページについては、外部からはもちろん、在学生にも便利な構成内容になっていて、好評です。

公式ホームページは、まだ全ページが完成しているわけではなく、現在検討中の部分も多々あり、各学校・部門で鋭意ページを作成しているところです。今後は、社会人、卒業生、受験生など外部からの利用者だけでなく、学生・生徒・児童、父母、教職員にも一層利用度の高いホームページとなるよう、内容を充実していかなければならないと考えています。

学習院公式ホームページのアドレスは <http://www.gakushuin.ac.jp/> です。



訃報

- 内藤頼博(学習院名誉院長) 平成十二年十二月五日逝去 享年九十二歳
- 郷千枝子(学習院名誉教授) 平成十三年二月四日逝去 享年九十七歳
- 渡辺藤一(元学習院高等科教諭) 平成十三年三月八日逝去 享年八十八歳
- 加藤泰義(学習院大学名誉教授、元学習院専務理事) 平成十三年六月二十五日逝去 享年七十三歳
- 篠原武司(本院元学習院理事、本院元学習院評議員) 平成十三年六月三十日逝去 享年九十五歳
- 東園佐和子(学習院監事) 平成十三年七月二日逝去 享年八十七歳

生涯学習センター、秋の講座パンフレット請求受付中!

この秋、六シーズン目を迎える生涯学習センター秋期講座は、九月中旬から十月にかけて、およそ一〇〇の講座を順次開講予定。日本をよむ「世界を知る」みる・感じる・つくる「自分を見つめる」子育て応援プログラム「暮らしを彩る」初歩から学ぶ外国語「実務・実用プログラム」資格試験対策プログラム、いずれも皆さんの知的好奇心を刺激してやまない九つのカテゴリーに分けられた多彩なプログラム。受講資格は皆さんの「学びたい、知りたい」という意欲だけ!年齢・性別・学歴にかかわらず、どなたでも受講いただけます。講座詳細を記した総合パンフレットは、七月下旬にも完成します。新規にパンフレットご希望の方は、センター事務局までお気軽にご連絡ください。

過去にご請求頂いている方には、パンフレット完成次第、自動的に発送致します。いずれも送料は無料です。

春期講座:

日本の装束と文化・作法



学習院生涯学習センター事務局

Tel 03-5992-1040 Fax 03-5992-1124

URL: <http://www.gakushuin.ac.jp/>

第十五回オール学習院の集い

恒例の「第十五回オール学習院の集い」が四月十五日(日)に学習院目白キャンパスにおいて開催されました。

当日は、天候にも恵まれ汗ばむほどの暖かさで例年より開花の早かった染井吉野は終わり、構内では八重桜が満開となりました。

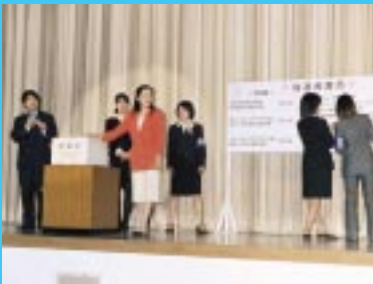
来場者は、約六千名との報告ではありましたが、昨年並の約七千名位は来場しているのではないかと思われるほど多くの教職員、卒業生、父母、学生・生徒や地域住民の方々が来校されました。

開会式は、福田一雄氏の指揮のもと在學生、卒業生の有志からなるオール学習院合唱団による学習院讃歌、輔仁会会歌、学習院讃歌の合唱で開幕し、続いて主催者を代表して島津久厚院長、共催団体を代表して北白川道久委員長の挨拶、財団法人アイメイト(盲導犬)協会へのチャリティーラッフル寄付金の贈呈などが行われました。

催しものとしては、昭和



財アイメイト協会による盲導犬の体験



チャリティーラッフル

四十年前後に活躍したC&Wバンドによる「懐かしのカントリーミュージック」、毎年楽しみな賞品が当たる「桜友会チャリティーラッフル抽選会」、財団法人アイメイト協会による盲導犬の体験、お子様乗馬試乗会などの他に、各種同窓会・総会、各クラボウ会、ラグビーの交流試合などの開催、模擬店、フリーマーケットが開店され、春いっぱい構内では卒業生をはじめ年配者や子供連れの家族が楽しい一日を過ごされていました。

編集後記

平成十三年六月五日、JR目白駅に「学校法人 学習院」の看板が設置されました。学習院各学校と学習院生涯学習センターとを一体にしたPR用看板です。写真にあるように、学習院カラー(紺系)を基調にし、キャッチフレーズは

学習院共通の教育目標「ひろい視野、たくましい創造力、ゆたかな感受性」としました。シンブルではありませんが、存在感のある看板ではないかと思っております。

(T)



学習院
21世紀計画

学習院広報 第六四号

平成十三年七月十五日

発行 学校法人学習院 総務部広報課

〒171-8588 東京都豊島区目白一丁目五番一号

電話(03)3986-0222(代)

掲載記事の無断転載を禁じます。

一頁、カラー写真 初等科児童の登校風景